

注3

大学番号：170

[平成27年度設置]

計画の区分：学部設置

注1

届出

名古屋学院大学 国際文化学部

注2

## 【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人名古屋学院大学  
平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名 ソウゴウキカクカ 総合企画課 カチョウ 課長 テグチ 出口 ヒロヤ 博也

電話番号 052-678-4077

（夜間） 052-678-4080

F A X 052-683-0410

e-mail kikaku@ngu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目次

## 国際文化学部

<国際文化学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	14
4. 既設大学等の状況	15
5. 教員組織の状況	17
6. 留意事項等に対する履行状況等	32
7. その他全般的事項	33

<国際協力量科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	36
2. 授業科目の概要	40
3. 施設・設備の整備状況、経費	47
4. 既設大学等の状況	48
5. 教員組織の状況	50
6. 留意事項等に対する履行状況等	64
7. その他全般的事項	65

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人名古屋学院大学

## (2) 大学名

名古屋学院大学

## (3) 大学の位置

名古屋キャンパス白鳥学舎  
〒456-8612  
愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番25号  
名古屋キャンパス日比野学舎  
〒456-0062  
愛知県名古屋市熱田区大宝三丁目1番17号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イナガキ タカシ) 稲垣隆司 (平成24年8月)	(スエヤス ケンジ) 末安堅二 (平成27年8月)	任期満了のため変更 平成27年8月3日 (28)
学長	(キブネ ヒサオ) 木船久雄 (平成23年4月)	(コバヤシ コウイチ) 小林甲一 (平成29年4月)	任期満了のため変更 平成29年4月1日 (29)
学部長	(キムラ コウシン) 木村光伸 (平成27年4月)		
学科長等	該当なし		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。  
 ・ 様式は, 平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
国際文化学部 国際文化学科 学士(国際文化)	文学関係	4年	100人	年次 -人	400人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。  
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	100人 ( - ) [ - ]	-人 ( - ) [ - ]	100人 ( - ) [ - ]	-人 ( - ) [ - ]	100人 ( - ) [ - ]	-人 ( - ) [ - ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	1.09倍	
志願者数	440 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	449 ( - ) [ 1 ]	- ( - ) [ - ]	582 ( 1 ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
受験者数	434 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	441 ( - ) [ 1 ]	- ( - ) [ - ]	568 ( 1 ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
合格者数	340 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	389 ( - ) [ 1 ]	- ( - ) [ - ]	355 ( 1 ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
B 入学者数	93 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	109 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	127 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
入学定員超過率 B/A	0.93		1.09		1.27					

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。  
 ・ ( )内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (( ))書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ [ ]内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで**記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	93 [ 1 ] ( - )	- [ - ] ( - )	109 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	127 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )			平成28年度に除籍者5名が発生し、平成29年度新入生127名を含め319名になった。 (29)  平成27年度に退学1名、除籍3名、他学部への転学部1名が発生し、平成28年度新入生を含め197名になった。 (28)
2年次	/		88 [ 1 ] ( - )	- [ - ] ( - )	106 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )			
3年次	/		/		86 [ 1 ] ( - )	- [ - ] ( - )			
4年次	/		/		/				
計	93 [ 1 ] ( - )		197 [ 1 ] ( - )		319 [ 1 ] ( - )				

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成27年度 入学者	93 人	6 人	平成27年度	4 人	0 人	就学意欲の低下(4人)	6.45 %
			平成28年度	2 人	0 人	除籍(2人)	
			平成29年度	0 人	0 人		
			平成30年度	人	人		
平成28年度 入学者	109 人	3 人	平成28年度	3 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(1人)、除籍(2人)	2.75 %
			平成29年度	0 人	0 人		
			平成30年度	人	人		
平成29年度 入学者	127 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成30年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	0 人	平成30年度	人	人		%
合 計	329 人	9 人					2.73 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

## 2 授業科目の概要

<国際文化学部 国際文化学科>

### (1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
キリスト教	キリスト教概説	1前	2						1			
	キリスト教	1後	2						1			
	キリスト教と文学	2・3・4前		2								兼1
	キリスト教と文化	2・3・4後		2								兼1
	キリスト教倫理	2・3・4前		2								兼2 兼1
	キリスト教史	1・2・3・4後		2								兼1
自己理解と自己開発	基礎セミナー	1前	2			8	3 2	3 4				宮坂講師の准教授昇任(29)
	発展セミナー	1後		2		8	3 2	3 4				宮坂講師の准教授昇任(29)
	キャリアデザイン1a	1前		2								兼2
	キャリアデザイン1b	1後		2								兼2
	キャリアデザイン2a	2前		2								兼3
	キャリアデザイン2b	2後		2								兼3
	キャリアデザイン3a	3前		2								兼1
	キャリアデザイン3b	3後		2								兼1
	ボランティア学	1・2・3・4前 未開講		2								兼2 兼1
	ボランティア演習	1・2・3・4後		2								兼4 兼3 兼1
N G U	インターンシップ1	1・2・3・4前・後		2								兼3 兼1
	インターンシップ2	1・2・3・4前・後		2								兼3 兼1
教養スタンダード科目	哲学	1・2・3・4前		2								兼1
	哲学史	1・2・3・4後		2								兼1
	日本文学	1・2・3・4前		2								兼1
	日本文学史	1・2・3・4後		2								兼1
	心理学概論	1・2・3・4前・後		2								兼1 兼2 兼3 兼2
	文明論	1・2・3・4後		2								兼1
	宗教と人間	1・2・3・4前 1・2・3・4後		2								兼1
	聖書と人間	1・2・3・4前		2								兼2 兼1
	キリスト教人間学	2・3・4前		2								兼1
	死生学	1・2・3・4前		2								兼1 兼3
社会的教養	臨床心理学	1・2・3・4前・後		2								兼1
	社会学入門	1・2・3・4前		2			1	0 +				兼2 兼3
	宗教社会学	1・2・3・4前・後		2			1	0 +				兼0 兼1
	比較宗教学	1・2・3・4後		2								兼1
	日本国憲法	1・2・3・4前・後		2								兼2 兼1
	現代社会と法律	1・2・3・4前・後		2								兼3 兼2
	現代社会と経済	1・2・3・4前・後		2								兼2 兼1
	企業と社会	1・2・3・4前・後		2								兼1 兼2 兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由		教授	准教授	講師	助教	助手			
N G U 教 養 ス タ ー タ ン ダ ー ド 科 目	社会理解	国際関係論入門	1・2・3・4後	2								兼1		
		国際政治学	1・2・3・4前	2									兼1	
		国際社会問題	1・2・3・4前・後	2									兼1	
		現代社会と教育	1・2・3・4後	2									兼1	
		平和学入門	1・2・3・4前・後	2									兼1	
		人権と社会	1・2・3・4前 1・2・3・4前・後	2									兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(27)
	自然理解	数学	1・2・3・4前	2									兼1	
		数理科学	1・2・3・4後	2									兼1	
		基礎統計学	1・2・3・4前	2									兼1	
		実用統計学	未開講 1・2・3・4後	2									兼0 兼1	秋元教授(兼任)の定年退職により未開講。次年度開講に向けて調整中(29)
		化学	1・2・3・4前	2									兼1	
		生物学	1・2・3・4前・後	2									兼1	
		地球科学概論	1・2・3・4前	2									兼1	
		地球物理学概論	1・2・3・4後	2									兼1	
		人類学	1・2・3・4前	2									兼1	
		物理学	1・2・3・4後	2									兼1	
	生命倫理	1・2・3・4後	2									兼1 兼2	教学上の理由により、兼任講師1名に担当変更(27) オムニバス	
	歴史文化理解	日本史	1・2・3・4前	2			1						兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
		日本思想史	1・2・3・4前・後	2									兼1	
		中国文化入門	1・2・3・4前	2			1						兼1	
		英米文化入門	1・2・3・4後	2									兼1	集中(28)
		文化人類学入門	1・2・3・4後	2				1	0 +				兼1	宮坂講師の准教授昇任(29)
		世界の近現代史	1・2・3・4前	2					1					
		世界史	1・2・3・4後	2					1					
		考古学入門	1・2・3・4後	2			1							
		陶芸論	1・2・3・4前	2									兼1	
		陶芸演習	1・2・3・4後	2									兼1	集中(28)
	環境理解	環境科学	未開講 1・2・3・4前	2									兼0 兼1	本務の関係により、杉山講師(兼任)が担当できず、未開講。次年度開講に向けて調整中(29) 本年度開講(28) 未開講(27) 集中(28)
		生態学	1・2・3・4前・後	2									兼1	
		地球環境学	1・2・3・4前	2									兼1	
	身体理解	健康の科学	1・2・3・4前・後	2									兼1	
		スポーツの科学	1・2・3・4後 1・2・3・4前・後	2									兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(29)
		スポーツ初級A	1・2・3・4前・後	1									兼5 兼4 兼2	教育効果を考慮し、津田教授(兼任)を担当者として追加(29) 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
		スポーツ初級B	1・2・3・4後 1・2・3・4前・後	1									兼5 兼4 兼2	教育効果を考慮し、津田教授(兼任)を担当者として追加(29) 教学上の理由により、開講時期を変更。教育効果を考慮し、担当者を追加(27)
		スポーツ中級A	2・3・4前・後	1									兼5 兼2	教育効果を考慮し、白井講師(兼任)、米川講師(兼任)、鬼頭講師(兼任)を担当者として追加(28)
		スポーツ中級B	2・3・4後 2・3・4前・後	1									兼5 兼3	教学上の理由により、開講時期を変更。教育効果を考慮し、白井講師(兼任)、鬼頭講師(兼任)を担当者として追加(28)
		スポーツ上級A	3・4後 3・4前・後	1									兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(29) 集中(29)
		スポーツ上級B	3・4後	1									兼1	集中(29)
	地域理解	地域商業まちづくり学	1・2・3・4前 1・2・3・4前・後	2									兼3 兼1	教学上の理由により、開講時期を変更。教育効果を考慮し、担当者を追加(27) オムニバス(28)
		歴史観光まちづくり学	1・2・3・4前・後	2									兼1	
減災福祉まちづくり学		1・2・3・4前・後	2									兼1		
地域商業まちづくり演習		1・2・3・4後	2									兼1		
歴史観光まちづくり演習		1・2・3・4後	2									兼1		
減災福祉まちづくり演習		1・2・3・4後	2									兼1		
上級まちづくり演習		2・3・4前・後	2									兼3		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由		教授	准教授	講師	助教	助手			
N G U 教 養 ス タ ン ダ ー ド 科 目	日本語表現	1前・後	2									兼2 兼1	教育効果を考慮し、濱野講師(兼任)を担当者として追加(28)	
	日本語表現上級	1前・後		2								兼3		
	基礎英語1	1前	1			1						兼2 兼3 兼2	教育効果を考慮し、Donahue教授(専任)を担当者として追加(29) 教学上の理由により、担当者を変更(28) 教学上の理由により、担当者を変更及び追加(27)	
	基礎英語2	1後	1			1						兼2 兼3 兼2	教育効果を考慮し、Donahue教授(専任)を担当者として追加(29) 教学上の理由により、担当者を変更(28) 教学上の理由により、担当者を変更及び追加(27)	
	英会話1	1前	1									兼3 兼2 兼4 兼3	教学上の理由により、望月講師(兼任)を担当復帰(29) 教学上の理由により、担当者を変更(28) 教学上の理由により、担当者を変更及び追加(27)	
	英会話2	1後	1									兼4 兼3 兼4 兼3	教学上の理由により、望月講師(兼任)を担当復帰(29) 教学上の理由により、担当者を変更(28) 教学上の理由により、担当者を変更及び追加(27)	
	入門ドイツ語1	1前		1		1						兼0 兼1	教育効果を考慮し、担当者を兼任講師から専任教授に変更(27)	
	入門ドイツ語2	1後		1		1						兼0 兼1	教育効果を考慮し、担当者を兼任講師から専任教授に変更(27)	
	基礎ドイツ語1	1前		1			1					兼0 兼1	教育効果を考慮し、担当者を兼任講師から専任教授に変更(27)	
	基礎ドイツ語2	1後		1			1					兼0 兼1	教育効果を考慮し、担当者を兼任講師から専任教授に変更(27)	
	入門フランス語1	1前		1			1					兼1 兼2	履修人数の減少により担当者数を変更(27)	
	入門フランス語2	1後		1			1					兼1 兼2	履修人数の減少により担当者数を変更(27)	
	基礎フランス語1	1前		1			1					兼1 兼2	履修人数の減少により担当者数を変更(27)	
	基礎フランス語2	1後		1			1					兼1 兼2	履修人数の減少により担当者数を変更(27)	
	入門スペイン語1	1前		1								兼2		
	入門スペイン語2	1後		1								兼2		
	基礎スペイン語1	1前		1								兼2		
	基礎スペイン語2	1後		1								兼2		
	入門中国語1	1前		1		1						兼2 兼1 兼2	履修人数の増加により、豊平講師(兼任)を担当者として追加(29) 履修人数の減少により担当者数を変更(27)	
	入門中国語2	1後		1		1						兼2 兼1 兼2	履修人数の増加により、豊平講師(兼任)を担当者として追加(29) 履修人数の減少により担当者数を変更(27)	
	基礎中国語1	1前		1		2						兼0 兼2	教育効果を考慮し、担当者を兼任講師から専任教授に変更(27)	
	基礎中国語2	1後		1		2						兼0 兼2	教育効果を考慮し、担当者を兼任講師から専任教授に変更(27)	
	入門韓国語1	1前		1								兼1		
	入門韓国語2	1後		1								兼1		
	基礎韓国語1	1前		1								兼1		
	基礎韓国語2	1後		1								兼1		
	手話入門	1後		1								兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(27)	
	手話基礎	1後		1								兼1		
	理 解 報	情報処理基礎	1前	2									兼1	
		情報概論	2後		2								兼1	
	教 職	教職論	1後		2								兼1	
		教育原理	1後		2								兼1	
		教育心理学概論1	1前		2								兼1	
教育心理学概論2		1後		2								兼1		
教育制度論		1前		2								兼1		
特別活動論		2前		2								兼1		
教育の方法と技術		2後		2								兼1		
道徳教育論		2後		2								兼1		
生徒・進路指導論		2後		2								兼1		
教育相談		2前		2								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
国際コミュニケーションスキル	国際文化理解英語1	2前		1								兼1	
	国際文化理解英語2	2後		1								兼1	
	留学英語中級	2前		1								兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(28)
	留学英語上級	2前		1								兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(28)
	TOEIC英語入門	1後		1								兼1	
	TOEIC英語基礎1	2前		1								兼1	
	TOEIC英語基礎2	2後		1								兼1	
	TOEIC英語実践1	2前		1								兼1	
	TOEIC英語実践2	2後		1								兼1	
	ビジネス英語1	2前		1								兼1	
	ビジネス英語2	2後		1								兼1	
	時事ドイツ語1	2前		1			1						
	時事ドイツ語2	2後		1			1						
	応用ドイツ語1	2前		1			1						
	応用ドイツ語2	2後		1			1						
	実践ドイツ語1	3前		1								兼1	
	実践ドイツ語2	3後		1								兼1	
	時事フランス語1	2前		1				1				兼1	教育効果を考慮し、鈴木准教授(専任)を担当者として追加(28)
	時事フランス語2	2後		1				1				兼1	教育効果を考慮し、鈴木准教授(専任)を担当者として追加(28)
	応用フランス語1	2前		1				1				兼1	教育効果を考慮し、河脇講師(兼任)を担当者として追加(28)
	応用フランス語2	2後		1				1				兼1	教育効果を考慮し、河脇講師(兼任)を担当者として追加(28)
	実践フランス語1	3前		1				1				兼1	教育効果を考慮し、鈴木准教授(専任)を担当者として追加(29)
	実践フランス語2	3後		1				1				兼1	教育効果を考慮し、鈴木准教授(専任)を担当者として追加(29)
	時事スペイン語1	2前		1								兼2 兼3	教学上の理由により、担当者を変更(28)
	時事スペイン語2	2後		1								兼2 兼3	教学上の理由により、担当者を変更(28)
	応用スペイン語1	2前		1								兼2 兼3	教学上の理由により、担当者を変更(28)
	応用スペイン語2	2後		1								兼2 兼3	教学上の理由により、担当者を変更(28)
	実践スペイン語1	3前		1								兼2 兼3	教学上の理由により、担当者を変更(29)
	実践スペイン語2	3後		1								兼2 兼3	教学上の理由により、担当者を変更(29)
	時事中国語1	2前		1			3						
	時事中国語2	2後		1			3						
	応用中国語1	2前		1			3						
	応用中国語2	2後		1			3						
	実践中国語1	3前		1			1					兼1	
	実践中国語2	3後		1			1					兼1	
	コミュニケーション中国語1	1前		1									
	コミュニケーション中国語2	1後		1			1						
	ビジュアル中国語	2後		1			1						
	日常中国語1	2前		1			1						
	日常中国語2	2後		1			1						
	中国語検定読解入門	3前		1			1						
	アジア言語入門1	2前		1								兼1	
	アジア言語入門2	2後		1								兼1	
	コンピュータ技法1	2前		2			1						
	コンピュータ技法2	2後		2			1						
国際理解科目	国際文化論	1前	2			2						兼1	オムニバス
	キリスト教文化論1	2前		2					1				
	キリスト教文化論2	2後		2					1				
	文化人類学	1前		2			1		0 1				宮坂講師の准教授昇任(29)
	グローバル社会文化論	1後		2			1					兼1	オムニバス
	日本史概説	1前		2			2						
	日本文化論	1後	2				1						
	比較宗教論	2前		2						1			
	宗教と平和	2後		2						1			
	国際環境論	2前		2								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由		教授	准教授	講師	助教	助手		
学 科 基 幹 目	英語演習1	1前	1			1						兼1 兼3 兼2	教学上の理由により、担当者を変更(28) 教学上の理由により、担当者を変更及び追加(27)
	英語演習2	1後	1			1						兼1 兼3 兼2	教学上の理由により、担当者を変更(28) 教学上の理由により、担当者を変更及び追加(27)
	英語演習3	2前	1			1						兼2	
	英語演習4	2後	1									兼2	
	英語演習5	2前	1			1						兼4 兼3	教育効果を考慮し、吉野講師(兼任)を担当者として追加(29)
	英語演習6	2後	1			1						兼4 兼2	教育効果を考慮し、担当者を追加(28)
	異文化コミュニケーション論	2前	2			1							
	比較文化・社会論1	2前	2			1							
	比較文化・社会論2	2後	2				1						
	文化マネジメント論	2前	2									兼1	
	多文化共生社会論	2前 2後	2									兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(29)
	東西交渉史	2前	2						1				
	観光文化論	2後	2									兼1	
	現代芸術論	2前	2									兼1	
	メディア文化論	2前	2									兼1	
	情報文化論	2前	2						1				
	多文化教育論	2後	2									兼1	
	人間行動論	2前	2						1				
	比較認知科学	2後	2						1				
	比較社会心理学	2前	2						1				
	現代経済入門	2後	2									兼1	
	アメリカ社会文化論	2前	2									兼1	
	アメリカ政治経済論	2後	2									兼1	
	英米文学概論1	2後 2前	2									兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(29)
	英米文学概論2	2後	2									兼1	
	英米文学講義1	2前	2									兼1	
	英米文学講義2	2後	2									兼1	
	英文学史	2前 2後	2									兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(28)
	米文学史	2後	2									兼1	
	ヨーロッパ文化総論	2前	2			1							
	ヨーロッパ地域文化論A	2前	2				1						
	ヨーロッパ地域文化論B	2後	2				1						
	ヨーロッパ地域文化論C	2前	2				1						
地中海文化圏論	2後	2									兼1		
日欧交流史	3後	2			1								
環太平洋地域文化論	3後 3前	2									兼2	教学上の理由により、開講時期を変更(29) オムニバス	
イスラム文化圏論	3後	2						1					
文化変容論	3前	2									兼1		
マイノリティ論	2前	2									兼1		
比較文化行動論	3前	2			1								
グローバル経済論	3後	2									兼1		
グローバル・ビジネス・コミュニケーション	3前	2									兼1		
日本文化史	2前	2			2							オムニバス(28)	
日本の思想	2後	2			2							オムニバス	
日本の民俗学	2前	2				1	0	+				宮坂講師の准教授昇任(29)	
日本社会論	2後	2									兼1		
日本地域史論	3前	2			2							オムニバス	
日本アジア交流史	2前	2			1								
現代中国事情	2後	2									兼1		
中国文化社会論	2前	2									兼1		
韓国文化社会論	2後	2									兼1		
現代アジア文化社会論	2前	2									兼1		
南アジア文化社会論	2後	2				1	0	+				宮坂講師の准教授昇任(29)	
日中関係論	2前	2									兼1		
中国社会経済論	3前	2									兼1		
日本のポップカルチャーとアジア	3後	2			1								
アジアの商習慣	3前	2									兼1		
アジア就業事情	3後	2									兼1		
文化交流論	2前	2									兼1		
ジェンダー論	2前	2									兼1		
国際人権論	2後	2									兼1		
平和学	2前	2									兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(28)	
国際地理論	1後	2									兼1		
世界遺産と保全	3前	2									兼2 兼1	教育効果を考慮し、長田教授(兼任)を担当者として追加。オムニバス(29)	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学 科 振 替 学 科 目	海外事情1	1・2・3・4前・後		2								兼1 集中
	海外事情2	1・2・3・4前・後		2								兼1 集中
	海外事情3	1・2・3・4前・後		2								兼1 集中
	海外事情4	1・2・3・4前・後		2								兼1 集中
科 専 門 科 目 演 習 科 目	フィールドワーク	1・2・3前		1		2	1 0	1 2				宮坂講師の准教授昇任(29) 集中
	国際文化理解実践論1	1・2・3前		2		4 3	2	2				教育効果を考慮し、嘗我教授(専任)を担当者として追加(29)
	国際文化理解実践論2	1・2・3後		2		3	2	2				
	国際文化基礎演習1	2前	2			8	3 2	3 4				宮坂講師の准教授昇任(29)
	国際文化基礎演習2	2後	2			8	3 2	3 4				宮坂講師の准教授昇任(29)
	国際文化演習	3~4通	8			8	3 2	3 4				宮坂講師の准教授昇任(29)

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。  
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
  - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
  - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 22	科目 228	科目 0	科目 250	科目 22 [0]	科目 228 [0]	科目 0 [0]	科目 250 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	実用統計学	2	1・2・3・4	一般	選択	秋元教授(兼任)の定年退職により未開講。代替措置なし。次年度開講の予定で調整を進めている。
2	環境科学	2	1・2・3・4	一般	選択	杉山講師(兼任)の本務の関係により、科目担当ができず、未開講。代替措置なし。次年度開講の予定で調整を進めている。

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
	該当なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「実用統計学」は秋元教授(兼任)の定年退職により未開講。「環境科学」は杉山講師(兼任)の本務の関係により、科目担当ができず、未開講。いずれの科目も次年度開講の予定で調整を進めている。上記の未開講科目について、学生に対しては履修登録システムにおいて周知をしている。
---

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{2}{250} = \boxed{0.8}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	その他に校舎敷地とする 空地を含んでいたため訂 正した。また、その他に 法人所有地を含んでいた ため控除した(27) 校舎敷地を取得した (28)			
	校 舎 敷 地	234,924.84 225,418.99 m <sup>2</sup> 144,021.00	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	234,924.84 225,418.99 m <sup>2</sup> 144,021.00				
	運 動 場 用 地	83,493.78 81,632.00 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	83,493.78 81,632.00 m <sup>2</sup>				
	小 計	318,418.62 308,912.77 m <sup>2</sup> 225,653.00	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	318,418.62 308,912.77 m <sup>2</sup> 225,653.00				
	そ の 他	64,445.76 181,773.53 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	64,445.76 181,773.53 m <sup>2</sup>				
	合 計	382,864.38 373,358.53 m <sup>2</sup> 407,426.53	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	382,864.38 373,358.53 m <sup>2</sup> 407,426.53				
(2) 校 舎	専 用	80,331.90 m <sup>2</sup> 74,094.01 m <sup>2</sup> 74,102.73 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	80,331.90 m <sup>2</sup> 74,094.01 m <sup>2</sup> 74,102.73 m <sup>2</sup>	平成27年1月竣工の新校 舎の面積を、建築面積か ら登記上の面積に修正し た(27) 平成30年9月竣工予定の 新校舎を予定数値に加え た(29)			
	(74,094.01 m <sup>2</sup> ) (74,102.73 m <sup>2</sup> )	( 0 m <sup>2</sup> )	( 0 m <sup>2</sup> )	(74,094.01 m <sup>2</sup> ) (74,102.73 m <sup>2</sup> )					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実 験 実 習 室	情 報 処 理 学 習 施 設	語 学 学 習 施 設				
	95室	82室	27室	6室 (補助職員 0人)	8室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	国際文化学部国際文化学科			14 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	平成27年度報告漏れのため、 2年分の変更を記載 (28)	
	国際文化学部	115,443[32,995] 111,019[32,647] (115,557[32,890]) (113,984[32,818]) (112,660[32,738]) (111,019[32,647])	1,060[495] (1,060[495])	400[400] (400[400])	1,898 (1,809) (1,728) (1,694) (1,642)	1,612 (1,612)	0 (0)		
	計	115,443[32,995] 111,019[32,647] (115,557[32,890]) (113,984[32,818]) (112,660[32,738]) (111,019[32,647])	1,060[495] (1,060[495])	400[400] (400[400])	1,898 (1,809) (1,728) (1,694) (1,642)	1,612 (1,612)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		平成27年度報告漏れのため、 2年分の変更を記載。 平成27年度、平成28年度 ともに瀬戸図書館の席数 増加(28) 平成28年度瀬戸図書館の 席数増加(29)			
	5,907.13 m <sup>2</sup>	906 869 857 778		550,000					
(7) 体 育 館	面 積	体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要							
	6,711.52 m <sup>2</sup>	野球場1面、屋内プール1面、テニスコート17面、ゴルフ練習場1面他							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費は大学全 体で配分
		教員1人当たり研究費等	680千円	680千円	図書購入費	5,270千円	5,270千円	5,270千円	
		共同研究費等	3,697千円	3,697千円	設備購入費	0千円	0千円	0千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
学生納付金以外の維持方法の概要	1,370千円		1,090千円	1,090千円	1,090千円	千円	千円		
		補助金収入、手数料収入、雑収入等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分で赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

#### 4 既設大学等の状況

大学の名称	名古屋学院大学							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入定 学員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
経済学部						1.17			
経済学科	4	250	-	1,050	学士 (経済学)	1.17	昭和39年度	愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番25号	平成27年度より3年次編入学定員(10)廃止、入学定員を300から250に変更。
総合政策学科	4	-	-	-	学士 (経済学)	-	平成12年度	同 上	平成27年度より学生募集停止
現代社会学部						1.00			
現代社会学科	4	150	-	450	学士 (現代社会)	1.00	平成27年度	同 上	
商学部						1.12			
商学科	4	200	-	800	学士 (商学)	1.15	平成4年度	同 上	平成27年度より3年次編入学定員(5)廃止
経営情報学科	4	100	-	400	学士 (商学)	1.09	平成15年度	同 上	
法学部						1.17			
法学科	4	150	-	600	学士 (法学)	1.17	平成25年度	同 上	
外国語学部						1.17			
英米語学科	4	140	-	560	学士 (文学)	1.17	平成元年度	同 上	
中国コミュニケーション学科	4	-	-	-	学士 (文学)	-	平成元年度	同 上	平成27年度より学生募集停止
国際文化協力量科	4	-	-	-	学士 (文学)	-	平成17年度	同 上	平成27年度より学生募集停止
国際文化学部						0.97			
国際文化学科	4	100	-	300	学士 (国際文化)	1.09	平成27年度	同 上	
国際協力量科	4	50	-	150	学士 (国際文化)	0.73	平成27年度	同 上	
スポーツ健康学部						1.12			
スポーツ健康学科	4	120	-	480	学士 (スポーツ健康)	1.26	平成22年度	愛知県瀬戸市上品野町1350番地	
こどもスポーツ教育学科	4	50	-	150	学士 (こどもスポーツ教育)	0.59	平成27年度	同 上	
リハビリテーション学部						1.11			
理学療法学科	4	80	-	320	学士 (理学療法学)	1.11	平成22年度	同 上	

大学の名称	名古屋学院大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
経済経営研究科									
経済学専攻 修士課程	2	7	-	14	修士 (経済学)	0.63	平成9年度	愛知県名古屋市熱田区大宝三丁目1番17号	
経営政策専攻 博士前期課程	2	20	-	40	修士 (経営学)	0.75	平成9年度	同上	
経営政策専攻 博士後期課程	3	5	-	15	博士 (経営学)	0.26	平成11年度	同上	
外国語学研究科									
英語学専攻 修士課程	2	7	-	14	修士 (英語学)	0.14	平成9年度	同上	
国際文化協力専攻 修士課程	2	5	-	10	修士 (国際文化協力)	0.20	平成21年度	同上	
英語学専攻 博士前期課程 (通信教育課程)	2	20	-	40	修士 (英語学)	0.92	平成13年度	同上	
英語学専攻 博士後期課程 (通信教育課程)	3	3	-	9	博士 (英語学)	0.77	平成20年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
  - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
  - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
  - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

## 5 教員組織の状況

<国際文化学部 国際文化学科>

### (1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	曾我 良成	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 日本史 日本史概説 日本文化論 日本文化史 日本の思想 ※ 日本地域史論 ※ フィールドワーク  国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	専	教授	曾我 良成	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 日本史 日本史概説 日本文化論 日本文化史 日本の思想 ※ 日本地域史論 ※ フィールドワーク  国際文化理解実践論1 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	教育効果を考慮し、当該科目の専任教員に変更(29)
専	教授	黄 名時	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 中国文化入門 考古学入門 実践中国語1 実践中国語2 国際文化論 ※ 中国文化社会論 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習						
専	教授	近藤 泉	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 入門中国語1 入門中国語2 時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 日常中国語1 日常中国語2 日本のポップカルチャーとアジア 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習						
専	教授	土屋 勝彦	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー  応用ドイツ語1 応用ドイツ語2 国際文化論 ※ グローバル社会文化論 ※ 比較文化・社会論1 ヨーロッパ文化総論 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	専	教授	土屋 勝彦	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 入門ドイツ語1 入門ドイツ語2 応用ドイツ語1 応用ドイツ語2 国際文化論 ※ グローバル社会文化論 ※ 比較文化・社会論1 ヨーロッパ文化総論 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	教育効果を考慮し、当該科目の専任教員に変更(27)
専	教授	樋口 勇夫	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー  時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 コミュニケーション中国語1 コミュニケーション中国語2 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	専	教授	樋口 勇夫	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 基礎中国語1 基礎中国語2 時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 コミュニケーション中国語1 コミュニケーション中国語2 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	教育効果を考慮し、当該科目の専任教員に変更(27)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	原田 寿美子	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー  時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 ビジュアル中国語 中国語検定読解入門 コンピュータ技法1 コンピュータ技法2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	専	教授	原田 寿美子	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 基礎中国語1 基礎中国語2 時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 ビジュアル中国語 中国語検定読解入門 コンピュータ技法1 コンピュータ技法2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	教育効果を考慮し、当該科目の専任教員に変更(27)
専	教授	鹿毛 敏夫	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 日本史概説 日欧交流史 日本文化史 日本の思想 ※ 日本地域史論 ※ 日本アジア交流史 フィールドワーク 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習						
専	教授	Ray Thomas Donahue	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー  英語演習1 英語演習2 英語演習3 英語演習4 英語演習5 英語演習6 異文化コミュニケーション論 比較文化行動論 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	専	教授	Ray Thomas Donahue	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 基礎英語1 基礎英語2 英語演習1 英語演習2 英語演習3 英語演習4 英語演習5 英語演習6 異文化コミュニケーション論 比較文化行動論 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	教育効果を考慮し、当該科目の専任教員に変更(29)
専	准教授	鈴木 啓司	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 応用フランス語1 応用フランス語2  比較文化・社会論2 ヨーロッパ地域文化論A 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	専	准教授	鈴木 啓司	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 応用フランス語1 応用フランス語2 時事フランス語1 時事フランス語2 実践フランス語1 実践フランス語2 比較文化・社会論2 ヨーロッパ地域文化論A 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28) 教育効果を考慮し、当該科目の専任教員に変更(29)
専	准教授	山本 淑雄	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー  時事ドイツ語1 時事ドイツ語2 ヨーロッパ地域文化論B ヨーロッパ地域文化論C 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	専	准教授	山本 淑雄	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 基礎ドイツ語1 基礎ドイツ語2 時事ドイツ語1 時事ドイツ語2 ヨーロッパ地域文化論B ヨーロッパ地域文化論C 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	教育効果を考慮し、当該科目の専任教員に変更(27)
専	講師	黒柳 志仁	平成27年4月	キリスト教概説 キリスト教 基礎セミナー 発展セミナー キリスト教文化論1 キリスト教文化論2 比較宗教論 宗教と平和 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習						

設置時の計画					変更状況					備考	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名		
専	講師	宮坂 清	平成29年4月	基礎セミナー 発展セミナー 社会学入門 宗教学 文化人類学入門 文化人類学 日本の民俗学 南アジア文化社会論 フィールドワーク 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	専	准教授 講師	宮坂 清	平成29年4月 平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 社会学入門 宗教学 文化人類学入門 文化人類学 日本の民俗学 南アジア文化社会論 フィールドワーク 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習	准教授に昇任(29)	
専	講師	吉田 達矢	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 世界の近現代史 世界史 東西交渉史 イスラム文化圏論 国際文化理解実践論1 国際文化理解実践論2 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習							
専	講師	柴崎 全弘	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 情報文化論 人間行動論 比較認知科学 比較社会心理学 フィールドワーク 国際文化基礎演習1 国際文化基礎演習2 国際文化演習							
兼任	教授	水野 晶夫	平成27年4月	ボランティア学 地域商業まちづくり学 地域商業まちづくり演習 上級まちづくり演習	兼任	教授	水野 晶夫	平成27年4月	ボランティア学 ボランティア学 地域商業まちづくり学 地域商業まちづくり演習 上級まちづくり演習 現代経済入門	本年度開講(29) 教学上の理由により未開講(28)  教育効果を考慮し、当該科目の担当 教員として追加(28)	
兼任	教授	松永 公廣	平成27年4月	インターンシップ1 インターンシップ2	兼任	教授	松永 公廣	平成27年4月	<del>インターンシップ1</del> <del>インターンシップ2</del>	教学上の理由により、高木教授(兼 担)に担当者変更(29)	
兼任	教授	持田 辰郎	平成27年4月	哲学 哲学史							
兼任	教授	早川 厚一	平成27年4月	日本文学 日本文学史	兼任	教授	早川 厚一	平成27年4月	日本文学 日本文学史 日本語表現	教学上の理由により、当該科目の担 当教員に変更(27)	
兼任	教授	谷口 篤	平成27年4月	心理学概論 教育心理学概論1 教育心理学概論2 教育の方法と技術 教育相談	兼任	教授	谷口 篤	平成27年4月	心理学概論 教育心理学概論1 教育心理学概論2 教育の方法と技術 教育相談	教学上の理由により、担当を外れた が、中島准教授(兼任)、加藤講師 (兼任)が担当するため教育上支障 はない(28)	
兼任	教授	今村 薫	平成27年4月	文明論 人類学 文化人類学入門	兼任	教授	今村 薫	平成27年4月	文明論 <del>人類学</del> 文化人類学入門	教学上の理由により、竹ノ下講師(兼 任)に担当者変更(29)	
兼任	教授	伊沢 俊泰	平成27年4月	現代社会と経済 企業と社会 グローバル経済論	兼任	教授	伊沢 俊泰	平成27年4月	現代社会と経済 企業と社会 グローバル経済論	教学上の理由により、黒田准教授 (兼任)、村上准教授(兼任)に担当 変更(27)	
兼任	教授	増田 あゆみ	平成27年4月	国際関係論入門 国際政治学 環太平洋地域文化論 ※ 文化変容論 マイノリティ論 日本社会論							
兼任	教授	矢澤 雅	平成27年4月	現代社会と教育 教職論 教育原理 教育制度論 多文化教育論	兼任	教授	矢澤 雅	平成27年4月	現代社会と教育 教職論 教育原理 教育制度論 多文化教育論	教学上の理由により、松本准教授 (兼任)に担当変更(27)	

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	宝島 格	平成27年4月	数学 数理科学 基礎統計学						
兼任	教授	秋元 浩一	平成27年4月	実用統計学	兼任	教授	秋元 浩一	平成27年4月	実用統計学	定年退職し、後任未定のため未開講。次年度開講に向けて調整中
兼任	教授	萩原 隆	平成27年4月	日本思想史						
兼任	教授	菅野 光公	平成27年4月	英米文化入門	兼任	講師 教授	菅野 光公	平成28年4月	英米文化入門	契約満了による退職のため、兼任講師として担当(28)
兼任	教授	木村 光伸	平成27年4月	生態学 グローバル社会文化論 ※ 国際環境論 環太平洋地域文化論 ※ 文化交流論 世界遺産と保全 海外事情1 海外事情2 海外事情3 海外事情4	兼任	教授	木村 光伸	平成27年4月	生態学 グローバル社会文化論 ※ 国際環境論 環太平洋地域文化論 ※ 文化交流論 世界遺産と保全 ※ 海外事情1 海外事情2 海外事情3 海外事情4	長田教授(兼任)とオムニバスで開講
兼任	教授	井澤 知且	平成27年4月	減災福祉まちづくり学 減災福祉まちづくり演習  上級まちづくり演習	兼任	教授	井澤 知且	平成27年4月	地域商業まちづくり学 減災福祉まちづくり学 減災福祉まちづくり演習  上級まちづくり演習	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27) 教学上の理由により、越智講師(兼任)に担当変更(27)  教学上の理由により、担当を外れたが、水野教授(兼任)、越智講師(兼任)、田中講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	教授	程 鵬	平成27年4月	情報処理基礎 情報概論						
兼任	教授	佐竹 眞明	平成27年4月	アジア言語入門1 国際文化論 ※ 多文化共生社会論 現代アジア文化社会論	兼任	教授	佐竹 眞明	平成27年4月	アジア言語入門1 国際文化論 ※ 多文化共生社会論 現代アジア文化社会論	教学上の理由により、佐伯講師(兼任)に担当者変更(29)
兼任	教授	Paul Dveraux McGrath	平成28年4月	英米文学概論1 英米文学講義1 英米文学講義2	兼任	教授	西村 美保	平成29年4月	英米文学概論1 英米文学講義1 英米文学講義2	定年退職により、後任として科目を担当(29)
兼任	教授	米山 雅浩	平成28年4月	英米文学概論2						
兼任	准教授	大宮 有博	平成27年4月	ボランティア演習  死生学※ 人権と社会 生命倫理※ 道德教育論	兼任	准教授	大宮 有博	平成27年4月	ボランティア演習  死生学※ 人権と社会 生命倫理※ 道德教育論 ボランティア学 聖書と人間	割愛による退職のため、以下のとおり担当者変更(28) ボランティア演習: 越智講師(兼任)、玉川准教授(兼任)、山下講師(兼任) 聖書と人間: 杉本講師(兼任)、日沖講師(兼任) 教学上の理由により、ボランティア学は未開講(28) 教学上の理由により、死生学は村山講師(兼任)、生命倫理は亀井講師(兼任)の単独担当に変更。人権と社会は神田講師(兼任)に変更(27)  教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
兼任	准教授	金 愛慶	平成27年4月	臨床心理学 韓国文化社会論	兼任	教授 准教授	金 愛慶	平成28年4月	臨床心理学 韓国文化社会論	教授に昇任(28)
兼任	准教授	飯島 滋明	平成27年4月	平和学入門 平和学	兼任	教授 准教授	飯島 滋明	平成28年4月	平和学入門 平和学	教授に昇任。教学上の理由により、担当を外れるが、中原講師(兼任)が担当するため教育上支障はない
兼任	准教授	中田 昭一	平成27年4月	入門中国語1 入門中国語2 実践中国語1 実践中国語2 現代中国事情 日中関係論	兼任	准教授	中田 昭一	平成27年4月	入門中国語1 入門中国語2 実践中国語1 実践中国語2 現代中国事情 日中関係論 中国社会経済論	教学上の理由により、史講師(兼任)の代わりに科目を担当(29)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	准教授	新多 了	平成28年4月	留学英語中級						
兼任	講師	安藤 りか	平成27年4月	キャリアデザイン1a キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b キャリアデザイン3a キャリアデザイン3b	兼任	准教授 講師	安藤 りか	平成28年4月 平成27年4月	キャリアデザイン1a キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b キャリアデザイン3a キャリアデザイン3b	准教授に昇任(28) 教学上の理由により、キャリアデザイン1aは山崎講師(兼任)、キャリアデザイン1bは上本講師(兼任)・山崎講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	江利川 良枝	平成27年4月	キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b	兼任	講師	江利川 良枝	平成27年4月	キャリアデザイン1a キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
兼任	講師	玉川 貴子	平成27年4月	死生学※	兼任	准教授 講師	玉川 貴子	平成28年4月 平成27年4月	死生学※ ボランティア演習	准教授に昇任(28) 教学上の理由により、死生学は村山講師(兼任)の単独担当に変更(27) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
兼任	講師	齊藤 久美子	平成27年4月	生物学	兼任	准教授 講師	齊藤 久美子	平成29年4月 平成27年4月	生物学	准教授に昇任(29)
兼任	講師	小林 記之	平成27年4月	地球科学概論 地球物理学概論 物理学 地球環境学	兼任	准教授 講師	小林 記之	平成28年4月	地球科学概論 地球物理学概論 物理学 地球環境学	准教授に昇任(28)
兼任	講師	伊藤 幹	平成27年4月	健康の科学 スポーツの科学 スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B スポーツ上級A スポーツ上級B						
兼任	講師	田中 智麻	平成27年4月	歴史観光まちづくり学 歴史観光まちづくり演習 上級まちづくり演習	兼任	講師	田中 智麻	平成27年4月	歴史観光まちづくり学 歴史観光まちづくり演習 上級まちづくり演習 インターンシップ1 インターンシップ2	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
兼任	講師	玉田 沙織	平成27年4月	日本語表現上級	兼任	講師	濱野 寛子	平成27年4月	日本語表現上級 日本語表現	玉田講師自己都合退職により、後任として科目を担当(27) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
兼任	講師	川越 めぐみ	平成27年4月	日本語表現上級	兼任	講師	川崎 めぐみ 川越 めぐみ	平成29年4月 平成27年4月	日本語表現上級 日本語表現上級	姓の変更(29) 産休明けにより、当該科目の担当復帰(29) 休職のため担当を外れたが、日本語表現上級は濱野講師(兼任)、永井講師(兼任)、堅田講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	講師	工藤 泰三	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2	兼任	講師	工藤 泰三	平成27年4月	基礎英語1+ 基礎英語2 基礎英語1 基礎英語2 英語演習1 英語演習2 英語演習1+ 英語演習2 英語演習5 英語演習6	教学上の理由により、Donahue教授(兼任)に担当者変更(29) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28) 教学上の理由により、基礎英語1.2は石川講師(兼任)・小杉講師(兼任)・高橋講師(兼任)に担当変更(27) 教学上の理由により、当該科目の担当復帰(29) 教学上の理由により、担当を外れるが、ダナヒュー教授(専任)、石川講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教学上の理由により、当該科目の担当教員を変更及び追加(27) 教学上の理由により、石川講師(兼任)の代わりに科目を担当(29)
兼任	講師	市川 新剛	平成28年4月	留学英語上級	兼任	准教授 講師	市川 新剛	平成28年4月	留学英語上級	准教授に昇任(28)
兼任	講師	佐伯 奈津子	平成27年4月	アジア言語入門2	兼任	講師	佐伯 奈津子	平成27年4月	アジア言語入門1 アジア言語入門2	教学上の理由により、佐竹教授(兼任)の代わりに科目を担当(29)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	人見 泰弘	平成27年4月	文化マネジメント論 ジェンダー論 国際人権論	兼任	准教授 講師	人見 泰弘	平成29年4月 平成27年4月	文化マネジメント論 ジェンダー論 国際人権論	准教授に昇任(29)
兼任	講師	野尻 洋平	平成28年4月	メディア文化論	兼任	講師	野尻 洋平	平成27年4月 平成28年4月	メディア文化論 社会学入門	平成27年度より任容字入門を担当しているため就任予定年月を修正 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
兼任	講師	石崎 程之	平成27年4月	現代経済入門	兼任	講師	石崎 程之	平成27年4月	現代経済入門	自己都合により退職(29) 病氣療養中につき、担当を外れるが、水野教授(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	講師	北垣 創	平成27年4月	キリスト教と文学 キリスト教史						
兼任	講師	志村 真	平成27年4月	キリスト教と文化 宗教と人間 聖書と人間 比較宗教学	兼任	講師	志村 真	平成27年4月	キリスト教と文化 宗教と人間 聖書と人間 比較宗教学	教学上の理由により、担当を外れるが、日沖講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教学上の理由により、宗教と人間・比較宗教学は村山講師(兼任)、聖書と人間は大宮准教授(兼任)・日沖講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	石田 聖実	平成28年4月	キリスト教倫理 キリスト教人間学	兼任	講師	石田 聖実	平成28年4月	キリスト教倫理 キリスト教人間学	教学上の理由により、葛井教授(兼任)に担当者変更(29)
兼任	講師	石井 邦博	平成28年4月	キャリアデザイン1a						
兼任	講師	丹山 美香	平成27年4月	キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b	兼任	講師	丹山 美香	平成27年4月	キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b	教学上の理由により、キャリアデザイン1bは上本講師(兼任)・山崎講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	加藤 智宏	平成27年4月	心理学概論						
兼任	講師	亀井 美穂	平成27年4月	死生学※ 生命倫理※	兼任	講師	亀井 美穂	平成27年4月	死生学※ 生命倫理※	教学上の理由により、担当を外れるが、文准教授(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教学上の理由により、死生学は村山講師(兼任)の単独担当に変更。生命倫理はオムニバスから単独担当に変更(27)
兼任	講師	玉木 満	平成27年4月	日本国憲法 現代社会と法律						
兼任	講師	中原 聖乃	平成27年4月	国際社会問題	兼任	講師	中原 聖乃	平成27年4月	国際社会問題 平和学	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
兼任	講師	長 昌史	平成27年4月	化学						
兼任	講師	八木 三生	平成27年4月	陶芸論 陶芸演習 現代芸術論						
兼任	講師	稲垣 隆司	平成27年4月	環境科学	兼任	講師	杉山 範子	平成28年4月	環境科学	本務の関係で科目担当ができません、未開講。次年度開講に向けて調整中 稲垣講師(兼任)の代わりに、当該科目を担当(28) 本務の関係で科目担当ができません、未開講。次年度からの就任が難しいため、現在、後任(兼任)を選考中(27)
兼任	講師	米川 直樹	平成27年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級B	兼任	講師	米川 直樹	平成27年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
兼任	講師	市野 聖治	平成28年4月	スポーツ中級A スポーツ中級B	兼任	講師	市野 聖治	平成28年4月	スポーツ中級A スポーツ中級B	教学上の理由により、津田教授(兼任)に担当者変更(29)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	河村 瑛子	平成27年4月	日本語表現	兼任	講師	河村 瑛子	平成27年4月	日本語表現	教学上の理由により、早川教授(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	永井 圭司	平成27年4月	日本語表現上級						
兼任	講師	野々山 富士江	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2 英語演習1 英語演習2 英語演習3 英語演習4 英語演習5 英語演習6	兼任	講師	野々山 富士江	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2 英語演習1 英語演習2 英語演習3 英語演習4 英語演習5 英語演習6	教学上の理由により、基礎英語1.2は石川講師(兼任)・小杉講師(兼任)・高橋講師(兼任)に担当変更及び追加(27) 教学上の理由により、英語演習1.2は工藤講師(兼任)・原口講師(兼任)・山之内講師(兼任)に担当変更及び追加(27) 教学上の理由により、担当を外れるが、他の教員が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	講師	N. ルツ	平成27年4月	英会話1 英会話2	兼任	講師	N.ルツ	平成27年4月	英会話1 英会話2	教学上の理由により、英会話1.2はダアノイ講師(兼任)・原口講師(兼任)・望月講師(兼任)・吉野講師(兼任)に担当変更及び追加(27)
兼任	講師	M.A.ダアノイ	平成27年4月	英会話1 英会話2	兼任	講師	M.A.ダアノイ	平成27年4月	英会話1 英会話2 英語演習3 英語演習5 英語演習6	教学上の理由により、担当を外れるが、英会話1は吉野講師(兼任)、小杉講師(兼任)が、英会話2は吉野講師(兼任)、小杉講師(兼任)、山之内講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教学上の理由により、英語演習3は山之内講師(兼任)、原口講師(兼任)に、英語演習5.6は工藤講師(兼任)に担当者変更(29) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
兼任	講師	G. M. マクレラン	平成27年4月	英会話1 英会話2	兼任	講師	G. M. マクレラン	平成27年4月	英会話1 英会話2	教学上の理由により、英会話1.2はダアノイ講師(兼任)・原口講師(兼任)・望月講師(兼任)・吉野講師(兼任)に担当変更及び追加(27)
兼任	講師	保坂 和宣	平成27年4月	入門ドイツ語1 入門ドイツ語2 基礎ドイツ語1 基礎ドイツ語2 実践ドイツ語1 実践ドイツ語2	兼任	講師	保坂 和宣	平成27年4月	入門ドイツ語1 入門ドイツ語2 基礎ドイツ語1 基礎ドイツ語2 実践ドイツ語1 実践ドイツ語2	教育効果を考慮し、入門ドイツ語1.2は土屋教授(専任)、基礎ドイツ語1.2は山本准教授(専任)に担当変更
兼任	講師	下村 武	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 時事フランス語1 時事フランス語2	兼任	講師	下村 武	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 時事フランス語1 時事フランス語2	教学上の理由により、実践フランス語1.2は鈴木教授(専任)、小林講師(兼任)に担当者変更(29) 教学上の理由により、担当を外れるが、時事フランス語1.2は鈴木准教授(専任)、ルヌウ講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	講師	鈴木 球子	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 実践フランス語1 実践フランス語2	兼任	講師	鈴木 球子	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 実践フランス語1 実践フランス語2	履修人数の減少により、入門フランス語1.2は鈴木准教授(専任)・湯浅講師(兼任)の2名に変更し、基礎フランス語1.2は鈴木准教授(専任)・河脇講師(兼任)の2名に担当変更
兼任	講師	重松 由美	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	兼任	講師	重松 由美	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	教学上の理由により、実践スペイン語1.2は内田講師(兼任)、梅田講師(兼任)に担当者変更(29) 教学上の理由により、担当を外れるが、時事スペイン語1.2は木下講師(兼任)、梅田講師(兼任)が、応用スペイン語1.2は内田講師(兼任)、渡辺講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	講師	寺澤 宏美	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	兼任	講師	寺澤 宏美	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	教学上の理由により、入門スペイン語1.2は梅田講師(兼任)・木下講師(兼任)、基礎スペイン語1.2は内田講師(兼任)・櫻井講師(兼任)に担当変更(27)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	史念	平成27年4月	入門中国語1 入門中国語2 中国社会経済論 アジアの商習慣 アジア就業事情	兼任	講師	史念	平成27年4月	入門中国語1 入門中国語2 中国社会経済論 アジアの商習慣 アジア就業事情	履修人数の減少により、入門中国語1.2は近藤教授(専任)・中田准教授(兼任)に担当変更(27) 教学上の理由により、中国社会経済論は中田准教授(兼任)に、アジアの商習慣、アジア就業事情は納富講師(兼任)に担当者変更(29)
兼任	講師	王麗英	平成27年4月	基礎中国語1 基礎中国語2	兼任	講師	王麗英	平成27年4月	基礎中国語1 基礎中国語2	教育効果を考慮し、基礎中国語1.2は原田教授(専任)・樋口教授(専任)に担当変更(27)
兼任	講師	陳泰銀	平成27年4月	基礎中国語1 基礎中国語2	兼任	講師	陳泰銀	平成27年4月	基礎中国語1 基礎中国語2	
兼任	講師	金禮	平成27年4月	入門韓国語1 入門韓国語2 基礎韓国語1 基礎韓国語2						
兼任	講師	今村 彩子	平成27年4月	手話入門 手話基礎						
兼任	講師	犬塚 文雄	平成28年4月	特別活動論	兼任 教授 兼任	教授 講師	犬塚 文雄	平成28年4月	特別活動論	兼任教授として採用(28)
兼任	講師	永田 国豊	平成28年4月	生徒・進路指導論	兼任	講師	永田 国豊	平成28年4月	生徒・進路指導論	
兼任	講師	吉野 勇夫	平成28年4月	国際文化理解英語1 国際文化理解英語2 ビジネス英語1 ビジネス英語2 アメリカ社会文化論 アメリカ政治経済論 グローバル・ビジネス・コミュニケーション	兼任	講師	吉野 勇夫	平成28年4月	国際文化理解英語1 国際文化理解英語2 ビジネス英語1 ビジネス英語2 アメリカ社会文化論 アメリカ政治経済論 グローバル・ビジネス・コミュニケーション 英会話1 英会話2 英語演習5 英語演習6	教学上の理由により、当該科目の担当者を変更及び追加(27) 教学上の理由により、当該科目の担当者を変更及び追加(29)
兼任	講師	山之内 健太	平成27年4月	TOEIC英語入門 TOEIC英語基礎1 TOEIC英語基礎2 TOEIC英語実践1 TOEIC英語実践2	兼任	講師	山之内 健太	平成27年4月	TOEIC英語入門 TOEIC英語入門 TOEIC英語基礎1 TOEIC英語基礎2 TOEIC英語実践1 TOEIC英語実践2 英語演習1 英語演習2 基礎英語1 英会話2 英語演習3 英語演習4 英語演習5 英語演習6	教学上の理由により、当該科目の担当復帰(29) 教学上の理由により、以下のとおり担当者を変更(28) TOEIC英語入門:原口講師(兼任) TOEIC英語基礎1.2:高橋講師(兼任) 英語演習1.2:ダナヒュー教授(専任)、石川講師(兼任) 教学上の理由により、当該科目の担当者を変更及び追加(27) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
兼任	講師	イラリオ ロサリオ	平成28年4月	時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	兼任	講師	イラリオ ロサリオ	平成28年4月	時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	教学上の理由により、担当を外れるが、時事スペイン語1.2は木下講師(兼任)、梅田講師(兼任)が、応用スペイン語1.2は内田講師(兼任)、渡辺講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教学上の理由により、実践スペイン語1.2は内田講師(兼任)、梅田講師(兼任)に担当者変更(29)
兼任	講師	原口 智子	平成27年4月	英語演習1 英語演習2 英語演習3 英語演習4 英語演習5 英語演習6	兼任	講師	原口 智子	平成27年4月	英語演習1 英語演習2 英語演習3 英語演習3 英語演習4 英語演習5 英語演習6 英会話1 英会話2 基礎英語2 TOEIC英語入門	教学上の理由により、担当を外れるが、他の教員が担当するため教育上支障はない(28) 教学上の理由により、当該科目の担当復帰(29) 教学上の理由により、担当を外れるが、他の教員が担当するため教育上支障はない(28) 教学上の理由により、担当を外れるが、他の教員が担当するため教育上支障はない(29) 教学上の理由により、当該科目の担当者を変更及び追加(27) 教学上の理由により、担当を外れるが、他の教員が担当するため教育上支障はない(29) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	森 正己	平成28年4月	観光文化論	兼任	教授 准教授	山本 真嗣	平成28年4月	観光文化論	教授に昇任(29) 教学上の理由により、森講師(兼任)より担当者変更(28)
兼任	講師	望月 節子	平成28年4月	英文学史 米文学史	兼任	講師	望月 節子	平成28年4月	英文学史 米文学史 英会話1 英会話2 英会話1 英会話2	教学上の理由により、当該科目の担当復帰(29) 教学上の理由により、担当を外れるが、英会話1は吉野講師(兼任)、小杉講師(兼任)が、英会話2は吉野講師(兼任)、小杉講師(兼任)、山之内講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教学上の理由により、当該科目の担当者を変更及び追加(27)
兼任	講師	有田 義之	平成28年4月	地中海文化圏論						
兼任	講師	林 上	平成27年4月	国際地理論						
					兼任	教授	岡澤 憲一郎	平成27年4月	社会学入門 宗教社会学	定年退職により、担当を外れたが、社会学入門は宮坂講師(専任)、早川教授(兼任)、野尻講師(兼任)が、宗教社会学は宮坂講師(専任)が担当するため教育上支障はない(28) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	教授	早川 洋行	平成27年4月	社会学入門	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	教授	津田 誠	平成27年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B	教学上の理由により、当該科目の担当復帰(29) 教学上の理由により、担当を外れたが、他の教員(4名)が担当するため教育上支障はない(28) 教育効果を考慮して、当該科目の担当教員として追加(27) 教学上の理由により、市野講師(兼任)の代わりに科目を担当(29)
					兼任	准教授	中島 誠	平成27年4月	心理学概論	教学上の理由により、担当を外れるが、加藤講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(29) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	准教授	榎澤 幸広	平成27年4月	日本国憲法 現代社会と法律	教育効果を考慮し、担当教員を追加
					兼任	准教授	黒田 知宏	平成27年4月	現代社会と経済	教学上の理由により、木船教授(兼任)に担当者変更(29) 教学上の理由により、伊沢教授(兼任)から担当変更(27)
					兼任	准教授	村上 寿来	平成27年4月	現代社会と経済 企業と社会	教学上の理由により、担当を外れるが、伊沢教授(兼任)が担当するため教育上支障はない(29) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	准教授	松本 浩司	平成27年4月	現代社会と教育	教学上の理由により、矢澤教授(兼任)から担当変更(27)
					兼任	准教授	濱 満久	平成27年4月	地域商業まちづくり学	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	講師	山下 匡将	平成27年4月	ボランティア演習	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	講師	越智 祐子	平成27年4月	減災福祉まちづくり学 減災福祉まちづくり演習 上級まちづくり演習 ボランティア演習	教学上の理由により、井澤教授(兼任)から担当変更(27) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼任	講師	山崎 直美	平成27年4月	キャリアデザイン1a キャリアデザイン1b	教学上の理由により、担当を外れるが、キャリアデザイン1aは江利川講師(兼任)、石井講師(兼任)が、キャリアデザイン1bは江利川講師(兼任)、上本講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教学上の理由により、安藤講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	上本 裕子	平成27年4月	キャリアデザイン1b	教学上の理由により、丹山講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	日沖 直子	平成27年4月	聖書と人間 キリスト教と文化 宗教と人間 比較宗教学	教学上の理由により、志村講師(兼任)から担当変更(27) 教学上の理由により、志村講師(兼任)から担当変更(28) 教学上の理由により、村山講師(兼任)から担当変更(28) 教学上の理由により、村山講師(兼任)から担当変更(28)
					兼任	講師	村山 由美	平成27年4月	死生学 宗教と人間 比較宗教学	教学上の理由により、担当を外れたが、死生学は文准教授(兼任)が、宗教と人間、比較宗教学は日沖講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教学上の理由により、大宮講師(兼任)他のオムニバスを変更し、単独で科目を担当(27) 教学上の理由により、志村講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	神田 浩史	平成27年4月	人権と社会	教学上の理由により、大宮講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	上野 史朗	平成27年4月	日本史	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	講師	坪田 暢允	平成27年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B	教学上の理由により、担当を外れるが、他の教員(4名)が担当するため教育上支障はない(28) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	講師	小杉 花代	平成27年4月	基礎英語2 基礎英語1 基礎英語2 英会話1 英会話2 英語演習5 英語演習6	教学上の理由により、当該科目の担当復帰(29) 教学上の理由により、担当を外れるが、基礎英語1は工藤講師(兼任)、山之内講師(兼任)が、基礎英語2は工藤講師(兼任)、原口講師(兼任)担当するため、教育上支障はない 教学上の理由により、工藤講師(兼任)、野々山講師(兼任)から担当変更(27) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
					兼任	講師	高橋 美由紀	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2 TOEIC英語基礎1 TOEIC英語基礎2	教学上の理由により、担当を外れるが、基礎英語1は工藤講師(兼任)、山之内講師(兼任)が、基礎英語2は工藤講師(兼任)、原口講師(兼任)担当するため、教育上支障はない 教学上の理由により、工藤講師(兼任)、野々山講師(兼任)から担当変更(27) 教学上の理由により、石川講師(兼任)に担当者変更(29) 教学上の理由により、山之内講師(兼任)から担当変更(28)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼任	講師	石川 香代子	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2 基礎英語+ 基礎英語2 TOEIC英語基礎1 TOEIC英語基礎2 英語演習+ 英語演習2	教学上の理由により、当該科目の担当復帰(29) 教学上の理由により、担当を外れるが、基礎英語1は工藤講師(兼任)、山之内講師(兼任)が、基礎英語2は工藤講師(兼任)、原口講師(兼任)担当するため、教育上支障はない 教学上の理由により、工藤講師(兼任)、野々山講師(兼任)から担当変更(27) 教学上の理由により、高橋講師(兼任)の代わりに科目を担当(29) 教学上の理由により、工藤講師(兼任)に担当者変更(29) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
					兼任	講師	湯浅 康正	平成27年4月	入門フランス語+ 入門フランス語2	教学上の理由により、担当を外れるが、鈴木准教授(専任)、ルスウ講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 履修人数の減少により、下村講師(兼任)、鈴木講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	河脇 都美	平成27年4月	基礎フランス語1 基礎フランス語2 応用フランス語1 応用フランス語2	履修人数の減少により、下村講師(兼任)、鈴木講師(兼任)から担当変更(27) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
					兼任	講師	梅田 美代子	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)から担当変更 教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)、ロサリオ講師(兼任)から担当変更(28) 教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)、ロサリオ講師(兼任)から担当者変更(29)
					兼任	講師	木下 智統	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)から担当変更 教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)、ロサリオ講師(兼任)から担当変更(28)
					兼任	講師	内田 千重子	平成27年4月	基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)から担当変更 教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)、ロサリオ講師(兼任)から担当変更(28) 教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)、ロサリオ講師(兼任)から担当者変更(29)
					兼任	講師	櫻井 里香	平成27年4月	基礎スペイン語1 基礎スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)から担当変更
					兼任	教授	家本 博一	平成28年4月	インターンシップ1 インターンシップ2	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
					兼任	准教授	文 禎顕	平成28年4月	死生学 生命倫理 ボランティア学 ボランティア演習	教学上の理由により、村山講師(兼任)より担当変更(28) 教学上の理由により、亀井講師(兼任)より担当変更(28) 教育効果を考慮して、当該科目の担当教員として追加(29)
					兼任	講師	白井 徹	平成28年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B	教学上の理由により、津田教授(兼任)より担当変更(28)
					兼任	講師	Loikku Lunu	平成28年4月	入門フランス語+ 入門フランス語2 時事フランス語+ 時事フランス語2	教学上の理由により、小林講師(兼任)に担当者変更(29) 教学上の理由により、湯浅講師(兼任)より担当変更(28) 教学上の理由により、下村講師(兼任)より担当変更(28)
					兼任	講師	鬼頭 伸和	平成28年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B	教学上の理由により、坪田講師(兼任)より担当変更(28)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼任	講師	堅田 陽子	平成28年4月	日本語表現上級	教学上の理由により、川崎講師(兼任)に担当者変更(29) 川越講師(兼任)の休職のため、担当変更(28)
					兼任	講師	杉本 和道	平成28年4月	キリスト教倫理 聖書と人間	教学上の理由によりキリスト教倫理は神山講師(兼任)に、聖書と人間は葛井教授(兼任)に担当者変更(29) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28) 大宮准教授(兼任)の割愛による退職のため、担当変更(28)
					兼任	講師	渡辺 有美	平成28年4月	応用スペイン語1 応用スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)、ロサリオ講師(兼任)から担当変更(28)
					兼任	教授	葛井 義憲	平成29年4月	聖書と人間 キリスト教人間学	教学上の理由により、杉本講師(兼任)の代わりに科目を担当(29) 教学上の理由により、石田講師(兼任)の代わりに科目を担当(29)
					兼任	教授	高木 直人	平成29年4月	インターンシップ1 インターンシップ2	教学上の理由により、松永教授(兼任)の代わりに科目を担当(29)
					兼任	教授	木船 久雄	平成29年4月	現代社会と経済	教学上の理由により、黒田准教授(兼任)の代わりに科目を担当(29)
					兼任	教授	長田 こずえ	平成29年4月	世界遺産と保全 ※	教育効果を考慮して、当該科目の担当教員として追加。木村教授(兼任)とオムニバスで開講(29)
					兼任	講師	神山 美奈子	平成29年4月	キリスト教倫理	教学上の理由により、杉本講師(兼任)の代わりに科目を担当(29)
					兼任	講師	鈴木 一永	平成29年4月	現代社会と法律	教育効果を考慮して、当該科目の担当教員として追加(29)
					兼任	講師	竹ノ下 祐二	平成29年4月	人類学	教学上の理由により、今村教授(専任)の代わりに科目を担当(29)
					兼任	講師	豊平 桂子	平成29年4月	入門中国語1 入門中国語2	教育効果を考慮して、当該科目の担当教員として追加(29)
					兼任	講師	小林 久美子	平成29年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 時事フランス語1 時事フランス語2 実践フランス語1 実践フランス語2	教学上の理由により、Lunu講師(兼任)の代わりに科目を担当(29) 教育効果を考慮して、当該科目の担当教員として追加(29)
					兼任	講師	納富 義宝	平成29年4月	アジアの商習慣 アジア就業事情	教学上の理由により、史講師(兼任)の代わりに科目を担当(29)

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
  - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
  - ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
  - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
  - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。  
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度( )書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
6	3
名	名

- (注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在(報告書提出時)の状況					現在(報告書提出時)の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
8	2	4	0	14	8	3	3	0	14	8	3	3	0	14
										[ 0 ]	[ 1 ]	[ Δ 1 ]	[ 0 ]	[ 0 ]

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( )内に開設時の状況を記入してください。
- ・ 「現在(報告書提出時)の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
  - ・ 「現在(報告書提出時)の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ 1)

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告書提出時(上記(A))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(B))の教員うち、定年を延長して採用する教員数
70	0	0
歳	名	名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由				
						該当なし				
合計（A）					後任補充状況の集計（B）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
						該当なし				
合計（C）					後任補充状況の集計（D）					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（A） + （C）					後任補充状況の集計（B） + （D）					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目	

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

## 6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項についての実施計画
設置計画履行状況 調査時 (平成29年2月)	国際文化学部国際協力学 科の定員充足率の平均が 0.7倍未満となっている ことから、学生確保に 努めるとともに、入学定 員の見直しについて検討 すること	改善意見 国際協力学科では平成28年度の入学者が22名 であったが、以下の取り組みにより平成29年 度の入学者は45名となり、定員充足率の平均 が0.73に改善された。 ①前年度に引き続き、大手予備校などのデー タを活用し国際学系統志望者へダイレクト メールを配布し、マーケットの拡大を図っ た。 ②第8代ユネスコ事務局長であった松浦晃一郎 氏を本学特任教授として招聘し、11月22日に 公開授業を実施するとともに、学生の海外ス タディーツアーや海外ボランティアの報告等も 実施するなど、本学科の広報活動を推進し た。 ③国際協力学科の教育内容を紹介するパンフ レットを新たに制作し、学科のゼミ活動や海 外スタディーツアーの成果等を取りまとめ、高 校訪問、進学相談会等で配布・紹介した。 ④国際協力学科の学びの内容と意義をわかり やすく伝えられるよう、進学相談会や高校で の模擬授業には他学科より優先的に参加し た。 ⑤英検、TOEIC、GTECなど英語関連資格の取得 者を対象としたグローバル人材特別入試を新 たに導入した。 平成29年度においては、以下外国語・国際教 育に関するハード・ソフト両面での充実を強 くPRするとともに、高大連携の充実を図る 取り組みを行い、定員充足を図る。 ①平成30(2018)年9月、名古屋キャンパス白 鳥学舎の近隣に新学舎「大宝学舎」を開設 し、本学がこれまで重点的に取り組んできた 外国語・国際教育に関するハード面の充実を 図る。 ②大宝学舎を活用して、とりわけ国際文化学 部及び外国語学部の語学授業やアクティブ・ ラーニングと授業外学習及びその支援、外国 人留学生との交流等を集約的に提供し、ソフ ト面の充実を図る。 ③愛知県はユネスコスクールの活動の先進地 域であることから、個別高等学校に直接的に 連携を働き掛け、高校生・留学生・本学部の 交流活動や共同作業を伴うような事業の検 討を進める(29)	

(注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を( )書きで付記してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

## 7 その他全般的事項

### <国際文化学部 国際文化学科>

#### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

#### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>別添「FD委員会規程」に基づき、全学的なFD委員会の下部組織に、国際文化学部FD委員会を設置している。国際文化学部FD委員会の構成は、学部長を委員長とし、4名の専任教員（学部教務委員と同一）により構成されている。また、この委員会の方針を基に、学部教授会構成員全委員の参加によるFD研修を随時実施している。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>委員会でも議論は学部のFDに関する方向性の議論にとどめ、学部長の指示により、教授会構成員全員を対象とした全体会議で全教員のFD活動を推進することとした。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>学部教務委員会の終了後、必要に応じてFD関連の連絡・調整を行っているが、とくに9月28日には単独で委員会を開催し、入学前準備準備プログラム実施の総括、国際文化基礎演習、国際協力基礎演習（それぞれ対象学科の2年生配当ゼミナール）、基礎セミナーにおける学生同行についての実情報告、離籍・退学等の可能性につながりかねない学生の動向などの関して、学部FD会合でも情報収集・情報交換の方法などについて議論した。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>2015年度に問題として確認した各項目に即して、学生の就学状況の的確な把握とともに、随時アドバイザー教員が学生の要望や抱える問題に対して迅速に対応できるように体制を整えた。具体的には、学部長、担当教員、学生支援課職員による連携と日常のかつ頻繁な意見交換によって学生の問題を抽出し、常に対応してきた。</p> <p>【具体的な活動】</p> <p>1. 学生実態の把握と教員としての対策の検討（7月13日）： 特に2016年度入学生の入学後の動向をすべての教員が共有するために基礎セミナー担当者からの報告、語学クラス担当などを基に、今後の対策をと指導方針の検討を行った。</p> <p>2. 学部FDの核としての「グローバル人材の育成について」「アクティブ・ラーニングの可能性について」の研修（10月5日）： 他大学のシンポジウムに参加した教員の報告をもとに、国際文化学部が取り組むべき「グローバル人材の育成について」意見交換をし方向性を確認した。また、2018年度後半から供用開始となる大宝学舎グローバル・コモンズの利用を想定した「アクティブ・ラーニング」のあり方を議論した。</p> <p>3. 留学生と交流する外国語学習の実践事例報告と検討（1月11日）： 主として英語演習、英会話、中国語などの授業において、国際文化学部学生と留学生別科に学ぶ外国人学生との授業内交流を実施することで、相互の学習効果を上げつつ、国際的視野を身に付ける授業が展開できることを実践的に示し、今後の授業校生のあり方として議論した。</p> <p>b 実施方法</p> <p>2015年度に掲げられた問題に対して、学生と教員との間の障害を極力取り除き、学生理解に基づく指導体制が構築できるように研修を積み上げた。すべての研修は全教員が参加することを原則とし、学部教授会開催後に集約的に展開した。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>開催時期を工夫した結果、公務等による教授会欠席者を除き全員参加でFD研修を実施することが出来た。</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>1年、2年対象の演習で学生の動向を基本的に把握することにより、学生の授業への参加を促進するとともに、必要に応じた個別指導により、学生の不満を的確に理解し、対応することが出来るようになった。また、すべての事例を学部長が報告を受け、必要に応じて直接対応する体制も整った。これらの取り組みにより、国際文化学部の専門科目の授業対応に一貫性が生じつつあり、授業間の学生対応の温度差が縮小するとともに、授業の連携（合同授業・講師を招いた授業の共同開催）などの取り組みも進行した。</p>
---

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

《2016年度 授業アンケート実施状況》

春学期：6月

秋学期：11月～12月

b 教員や学生への公開状況、方法等

教職員、学生とも、担当部署（学生支援課・瀬戸キャンパス総合事務部）にて閲覧することが出来る。  
教員は自身の担当科目を、学内イントラネットでも閲覧出来る。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学国際文化学部は、文部科学省が推進する我が国における「グローバル人材育成戦略」（平成24年6月）が求める豊かな語学力・コミュニケーション能力や異文化体験を身に付け、国際的に活躍できる人材の育成を目標として開設され、現在までに2か年の学生を受け入れ、設置の趣旨・目的に即したカリキュラムに基づいた学修を進めている。従来から本学の外国語教育・国際化教育を担ってきた外国語学部が大きく改組され、英米語学を主体とした教育内容に変更されたことと並行して、多様な言語による国際コミュニケーション教育の推進や国際理解学習の推進、国際協力活動への実践的な参画などを目標に掲げて、国際文化学部は国際文化学科および国際協力学科の2学科体制で教育を進めているところである。語学教育が中心となる外国語学部と明確に教育内容の差別化を図るために、国際文化学部では国際理解に基礎づけられた国際交流・国際協力・国際支援に資する能力を身に付けることができるように基本的なカリキュラムの整備を行ったうえで、開設の届出を行い受理された。平成30年度末の学部完成まで、この方針と教育の方向性を堅持し、なお必要な改革を進めながら教育目標を達成する。

国際文化学科はとくに国際理解・国際交流を軸にしたカリキュラム構成で学修を進めることを主たる目標としており、座学に偏重せず、フィールドワーク、海外留学、ボランティア活動などを有機的に取り込みつつ、学生の主体的な課題発見・問題解決型の授業を積極的に取り入れながら、少数主体の専門教育を広く展開しているところである。とくに第1期入学生が2年次に進級し、学修を始めた平成28年度には多くの専門科目がスタートし、国際化学習のための理論的諸分野とともに、ヨーロッパ、アメリカ、アジアの多地域に関する地域研究分野の講義も多岐にわたって展開されることで、国際文化学科の専門性が学生に明確に理解されるように、当初からの計画に沿った授業展開がなされた。

平成27年度の第1期入学生の初年次学習時から合宿型の集中講義・実習として実施されている国際文化学科の「フィールドワーク」では地域研究の方法、地域理解のあり方、地域での社会連携実践などを学ぶために実習と座学と討論が4日間にわたって行われ、日本における文化の多様な理解をもとに文化多様性への取り組み方を学ぶことで、そのまま舞台を国際的な場へと展開できるように学修させており、2年間で30名（学科所属学生の15%）が教員と密接に生活をともにしながら、学習に励んできた。このプログラムは平成28年度も実施され、前年度不十分であった学生の自主的な調査活動とその記録の作成がより効率的に実施され、学習の成果報告書でも全員の記載を公表できた。このような教員と学生の密着型の学習は、学外教育にとどまらず、中国語や英語の学習においても正規授業プログラムの中で展開されており、とくに本学に留学中のネイティブの学生と授業内での相互学習を通して学びあう場を教員が提供する、あるいは授業中の学生とアメリカのボランティア・ネイティブ教員とのスカイプを活用した英語によるコミュニケーションを展開し、教員がそれをサポートするなど、多彩な学習推進方法が実践されている。

平成28年度は、昨年度に引き続き、入学予定者全員に対して入学前教育として「自己の探求」プログラムを実施し、本学とりわけ本学部への入学動機を明確化させるとともに、学習にあたっての仲間づくりや学習への心構えの醸成などを目的とした。このプログラムと合わせて全学的に展開している学力試験入試を経ずに本学に専願として入学してくる新入生を対象とした入学前学修プログラムや、入学時の学力測定等を目的としたブレースメントテスト（入学予定者全員が対象）などの複数のプログラムにより、入学後すぐに大学生としてのスタートラインに立てるように配慮するなど、スムーズな学習への導入を行ってきた。また、新入生に対して、オリエンテーション期間と4月の授業期間を活用した上級生による新入生への学部ガイダンスや授業内外での活動紹介などに時間をとることにより、国際文化学部の意義・目的・現状の伝達が学生の実際の行動や言葉を通して行われたことは学生間の結束を高めるとともに、学年を超えた学修への一体感の創出として意義深いことであったと考えられる。

教員としての視点から見れば、学生の学習動機の明確化ならびに学習主体としての学年を超えた交流を、学部所属教員がいかに支え、指導するかという点が、最も重要で、かつ教員間の意思疎通が必要なところである。先に記載した学部で実践されたFD活動にもみられるように、学部教員全員が入学生の学習状況や通学状況を共有し、基礎セミナーを担当する教員がクラスアドバイザーとして個々の学生を把握していることにより、それぞれの授業や学生との接触場面での様子が相互に理解可能な状態で情報の交換が実践されていることにより、学生の実態把握は十分に行われていると評価できる。また、それぞれの教員が受けた印象なども必要に応じて頻繁に学部長に報告されており、学部長と学生支援課との連携にも効果が認められている。これらが結果として、在学生の満足度にも反映しているものと考えられる。

平成27年度に引き続き、平成28年度における学部設置の進行状況は、設置届出通りに展開されており、カリキュラムに定められたすべての授業を開講して、学生の学修に対応している。引き続き、この体制を堅持する予定である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成29年10月 公表予定

b 公表方法

自己点検評価報告書（名称未定）を作成し、学内外に配布及びホームページで公表予定。

③ 認証評価を受ける計画

財団法人大学基準協会の相互評価及び認証評価を受け、平成24年3月に、「評価の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は2019（平成31）年3月31日までとする。」との結果を受領している。平成30年度に評価機関（大学基準協会）の評価を受ける予定である。

- (注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。  
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。  
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 ( 有 ・  無 )

b 公表時期（未公表の場合は予定時期） ( 年 月 日 )

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人名古屋学院大学

## (2) 大学名

名古屋学院大学

## (3) 大学の位置

名古屋キャンパス白鳥学舎  
〒456-8612  
愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番25号  
名古屋キャンパス日比野学舎  
〒456-0062  
愛知県名古屋市熱田区大宝三丁目1番17号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イナガキ タカシ) 稲垣隆司 (平成24年8月)	(スエヤス ケンジ) 末安堅二 (平成27年8月)	任期満了のため変更 平成27年8月3日(28)
学長	(キブネ ヒサオ) 木船久雄 (平成23年4月)	(コバヤシ コウイチ) 小林甲一 (平成29年4月)	任期満了のため変更 平成29年4月1日(29)
学部長	(キムラ コウシン) 木村光伸 (平成27年4月)		
学科長等	該当なし		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。  
 ・ 様式は, 平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
国際文化学部 国際協力学科 学士(国際文化)	文学関係	4年	50人	年次 -人	200人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。  
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	50人 ( - ) [ - ]	-人 ( - ) [ - ]	50人 ( - ) [ - ]	-人 ( - ) [ - ]	50人 ( - ) [ - ]	-人 ( - ) [ - ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	0.73倍	
志願者数	161 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	104 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	193 ( 1 ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
受験者数	156 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	101 ( - ) [ 1 ]	- ( - ) [ - ]	189 ( 1 ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
合格者数	125 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	84 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	114 ( 1 ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
B 入学者数	43 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	22 ( - ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	45 ( 1 ) [ - ]	- ( - ) [ - ]	( ) ( ) [ ]	( ) ( ) [ ]		
入学定員超過率 B/A	0.86		0.44		0.90					

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。  
 ・ ( )内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (( ))書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ [ ]内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで**記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	43 [ 1 ] ( - )	- [ - ] ( - )	22 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	45 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )			平成29年度の新入生45名と3年次編入生1名を含め110名になった。(29)  平成27年度に除籍1名が発生し、平成28年度入学生を含め64名になった。(28)
2年次	/		42 [ 1 ] ( - )	- [ - ] ( - )	22 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )			
3年次	/		/		43 [ 1 ] ( - )	- [ - ] ( - )			
4年次	/		/		/				
計	43 [ 1 ] ( - )		64 [ 1 ] ( - )		110 [ 1 ] ( - )				

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成27年度 入学者	43 人	1 人	平成27年度	1 人	0 人	家庭の事情(1人)	2.32 %
			平成28年度	0 人	0 人		
			平成29年度	0 人	0 人		
			平成30年度	人	人		
平成28年度 入学者	22 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成29年度	0 人	0 人		
			平成30年度	人	人		
平成29年度 入学者	45 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成30年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	0 人	平成30年度	人	人		#DIV/0! %
合 計	110 人	1 人					0.90 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
N G U 教 養 ス タ ン ダ ー ド 科 目	社会的理解	現代社会と経済	1・2・3・4前・後	2							兼2 兼1	教育効果を考慮し、担当者を変更及び追加(27)		
		企業と社会	1・2・3・4前・後	2							兼1 兼2 兼1	教学上の理由により、村上准教授(兼任)が担当を外れたが、伊沢教授(兼任)が担当するため教育上支障はない(29) 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)		
		国際関係論入門	1・2・3・4後	2			1							
		国際政治学	1・2・3・4前	2			1							
		国際社会問題	1・2・3・4前・後	2								兼1 兼2 兼1	教学上の理由により、吉田講師(兼任)が担当を外れるが、中原講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
		現代社会と教育	1・2・3・4後	2			1					兼1	教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
		平和学入門	1・2・3・4前・後	2								兼1		
		人権と社会	1・2・3・4前 1・2・3・4前・後	2								兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(27)	
		自然理解	数学	1・2・3・4前	2								兼1	
			数理科学	1・2・3・4後	2								兼1	
	基礎統計学		1・2・3・4前	2								兼1		
	自然理解	実用統計学	未開講 1・2・3・4後	2								兼0 兼1	秋元教授(兼任)の定年退職により未開講。次年度開講に向けて調整中(29)	
		化学	1・2・3・4前	2								兼1		
		生物学	1・2・3・4前・後	2								兼1		
		地球科学概論	1・2・3・4前	2								兼1		
		地球物理学概論	1・2・3・4後	2								兼1		
		人類学	1・2・3・4前	2								兼1		
		物理学	1・2・3・4後	2								兼1		
		生命倫理	1・2・3・4後	2								兼1 兼2	教学上の理由により、兼任講師1名に担当変更(27) オムニバス	
		歴史文化理解	日本史	1・2・3・4前	2								兼2 兼1	教育効果を考慮し、上野講師(兼任)を担当者として追加(27)
			日本思想史	1・2・3・4前・後	2								兼1	
	中国文化入門		1・2・3・4前	2								兼1		
	英米文化入門		1・2・3・4後	2								兼1	集中(28)	
	文化人類学入門		1・2・3・4後	2								兼2		
	世界の近現代史		1・2・3・4前	2								兼1		
	世界史		1・2・3・4後	2								兼1		
	考古学入門		1・2・3・4後	2								兼1		
	陶芸論		1・2・3・4前	2								兼1		
	陶芸演習		1・2・3・4後	2								兼1	集中(28)	
	環境理解	環境科学	未開講 1・2・3・4前	2								兼0 兼1	本務の関係により、杉山講師(兼任)が担当できず、未開講。次年度開講に向けて調整中(29) 本年度開講(28) 未開講(27) 集中(28)	
		生態学	1・2・3・4前・後	2			1					兼1		
	身体理解	地球環境学	1・2・3・4前	2								兼1		
		健康の科学	1・2・3・4前・後	2								兼1		
		スポーツの科学	1・2・3・4後 1・2・3・4前・後	2								兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(29)	
		スポーツ初級A	1・2・3・4前・後	1								兼5 兼4 兼2	教育効果を考慮し、津田教授(兼任)を担当者として追加(29) 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
		スポーツ初級B	1・2・3・4後 1・2・3・4前・後	1								兼5 兼4 兼2	教育効果を考慮し、津田教授(兼任)を担当者として追加(29) 教学上の理由により、開講時期を変更。 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
		スポーツ中級A	2・3・4前・後	1								兼5 兼2	教育効果を考慮し、白井講師(兼任)、米川講師(兼任)、鬼頭講師(兼任)を担当者として追加(28)	
		スポーツ中級B	2・3・4後 2・3・4前・後	1								兼5 兼3	教学上の理由により、開講時期を変更。 教育効果を考慮し、白井講師(兼任)、鬼頭講師(兼任)を担当者として追加(28)	
		スポーツ上級A	3・4後 3・4前・後	1								兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(29) 集中(29)	
		スポーツ上級B	3・4後	1								兼1	集中(29)	
		社会的教養	地域商業まちづくり学	1・2・3・4前 1・2・3・4前・後	2								兼3 兼1	教学上の理由により、開講時期を変更。 教育効果を考慮し、担当者を追加(27) オムニバス(28)
	歴史観光まちづくり学		1・2・3・4前・後	2								兼1		
減災福祉まちづくり学	1・2・3・4前・後		2								兼1			
地域商業まちづくり演習	1・2・3・4後		2								兼1			
歴史観光まちづくり演習	1・2・3・4後		2								兼1			
減災福祉まちづくり演習	1・2・3・4後		2								兼1			
上級まちづくり演習	2・3・4前・後		2								兼3			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
N G U 教 養 ス タ ン ダ ー ド 科 目	日本語表現	1前・後	2									兼1	
	日本語表現上級	1前・後	2									兼3	
	基礎英語1	1前	1					1				兼2 教育効果を考慮し、石川講師(兼任)を担当者として追加(29)	
	基礎英語2	1後	1					1				兼2 教育効果を考慮し、石川講師(兼任)を担当者として追加(29)	
	英会話1	1前	1						1			兼1 兼2 兼3 教育効果を考慮し、工藤講師(専任)を担当者として追加(29) 教学上の理由により、望月講師(兼任)が担当から外れるが、吉野講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 履修人数の減少により担当者数を変更(27)	
	英会話2	1後	1						1			兼1 兼2 兼3 教育効果を考慮し、工藤講師(専任)を担当者として追加(29) 教学上の理由により、望月講師(兼任)が担当から外れるが、吉野講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 履修人数の減少により担当者数を変更(27)	
	入門ドイツ語1	1前	1									兼1	
	入門ドイツ語2	1後	1									兼1	
	基礎ドイツ語1	1前	1									兼1	
	基礎ドイツ語2	1後	1									兼1	
	入門フランス語1	1前	1									兼2 履修人数の減少により担当者数を変更(27)	
	入門フランス語2	1後	1									兼2 履修人数の減少により担当者数を変更(27)	
	基礎フランス語1	1前	1									兼2 履修人数の減少により担当者数を変更(27)	
	基礎フランス語2	1後	1									兼2 履修人数の減少により担当者数を変更(27)	
	入門スペイン語1	1前	1									兼2	
	入門スペイン語2	1後	1									兼2	
	基礎スペイン語1	1前	1									兼2	
	基礎スペイン語2	1後	1									兼2	
	入門中国語1	1前	1					1				兼2 履修者数の増加により、豊平講師(兼任)を担当者として追加(29) 当初2名の予定であったが3名と誤記載。 履修人数の減少により担当者数を変更(27)	
	入門中国語2	1後	1					1				兼2 履修者数の増加により、豊平講師(兼任)を担当者として追加(29) 当初2名の予定であったが3名と誤記載。 履修人数の減少により担当者数を変更(27)	
	基礎中国語1	1前	1									兼2	
	基礎中国語2	1後	1									兼2	
	入門韓国語1	1前	1									兼1	
	入門韓国語2	1後	1									兼1	
	基礎韓国語1	1前	1									兼1	
	基礎韓国語2	1後	1									兼1	
	手話入門	1後	1									兼1 教学上の理由により、開講時期を変更(27)	
	手話基礎	1後	1									兼1	
	理 情 解 報	情報処理基礎	1前	2									兼1
		情報概論	2後	2									兼1
教 職	教職論	1後	2			1						兼1	
	教育原理	1後	2			1						兼1	
	教育心理学概論1	1前	2									兼1	
	教育心理学概論2	1後	2									兼1	
	教育制度論	1前	2			1						兼1	
	特別活動論	2前	2									兼1	
	教育の方法と技術	2後	2									兼1	
	道徳教育論	2後	2									兼1	
	生徒・進路指導論	2後	2									兼1	
	教育相談	2前	2									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置						備考			
			必修	選択自由	教授	准教授	講師	助教	助手					
学 部 共 通 科 目	国際文化理解英語1	2前		1								兼1		
	国際文化理解英語2	2後		1								兼1		
	留学英語中級	2後 2前		1								兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(28)	
	留学英語上級	2前 2後		1								兼1	教学上の理由により、開講時期を変更(28)	
	TOEIC英語入門	1後		1								兼1		
	TOEIC英語基礎1	2前		1								兼1		
	TOEIC英語基礎2	2後		1								兼1		
	TOEIC英語実践1	2前		1								兼1		
	TOEIC英語実践2	2後		1								兼1		
	ビジネス英語1	2前		1								兼1		
	ビジネス英語2	2後		1								兼1		
	時事ドイツ語1	2前		1								兼1		
	時事ドイツ語2	2後		1								兼1		
	応用ドイツ語1	2前		1								兼1		
	応用ドイツ語2	2後		1								兼1		
	実践ドイツ語1	3前		1								兼1		
	実践ドイツ語2	3後		1								兼1		
	時事フランス語1	2前		1								兼2	教育効果を考慮し、鈴木准教授(兼任)を担当者として追加(28)	
	時事フランス語2	2後		1								兼2	教育効果を考慮し、鈴木准教授(兼任)を担当者として追加(28)	
	応用フランス語1	2前		1								兼2	教育効果を考慮し、河脇講師(兼任)を担当者として追加(28)	
	応用フランス語2	2後		1								兼2	教育効果を考慮し、河脇講師(兼任)を担当者として追加(28)	
	実践フランス語1	3前		1								兼2	教育効果を考慮し、鈴木准教授(兼任)を担当者として追加(29)	
	実践フランス語2	3後		1								兼2	教育効果を考慮し、鈴木准教授(兼任)を担当者として追加(29)	
	時事スペイン語1	2前		1								兼2	兼3	教学上の理由により、担当者を変更(28)
	時事スペイン語2	2後		1								兼2	兼3	教学上の理由により、担当者を変更(28)
	応用スペイン語1	2前		1								兼2	兼3	教学上の理由により、担当者を変更(28)
	応用スペイン語2	2後		1								兼2	兼3	教学上の理由により、担当者を変更(28)
	実践スペイン語1	3前		1								兼2	兼3	教学上の理由により、担当者を変更(29)
	実践スペイン語2	3後		1								兼2	兼3	教学上の理由により、担当者を変更(29)
	時事中国語1	2前		1								兼3		
	時事中国語2	2後		1								兼3		
	応用中国語1	2前		1								兼3		
	応用中国語2	2後		1								兼3		
	実践中国語1	3前		1				1				兼1		
	実践中国語2	3後		1				1				兼1		
	コミュニケーション中国語1	1前		1								兼1		
	コミュニケーション中国語2	1後		1								兼1		
	ビジュアル中国語	2後		1								兼1		
	日常中国語1	2前		1								兼1		
	日常中国語2	2後		1								兼1		
	中国語検定読解入門	3前		1								兼1		
	アジア言語入門1	2前		1			0		1					教学上の理由により、佐伯講師(専任)に担当者変更(29)
	アジア言語入門2	2後		1					1					
	コンピュータ技法1	2前		2									兼1	
	コンピュータ技法2	2後		2									兼1	
	国際理解科目	国際文化論	1前	2			1						兼2	オムニバス
		キリスト教文化論1	2前	2									兼1	
		キリスト教文化論2	2後	2									兼1	
		文化人類学	1前	2									兼1	
		グローバル社会文化論	1後	2			1						兼1	オムニバス
日本史概説		1前	2									兼2		
日本文化論		1後	2									兼1		
比較宗教論		2前	2									兼1		
宗教と平和		2後	2									兼1		
国際環境論		2前	2			1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
学科 基幹科目	英語演習1	1前	1					1				兼1 教育学上の理由により、担当者を変更(28) 兼2 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
	英語演習2	1後	1					1				兼1 教育学上の理由により、担当者を変更(28) 兼2 教育効果を考慮し、担当者を追加(27)	
	英語演習3	2前	1					1				兼2 教育効果を考慮し、山之内講師(兼任)、小杉講師(兼任)を担当者として追加(28)	
	英語演習4	2後	1					1				兼2 教育効果を考慮し、原口講師(兼任)、山之内講師(兼任)を担当者として追加(28)	
	英語演習5	2前	1					1				兼2 教育効果を考慮し、石川講師(兼任)を担当者として追加(29) 兼1 教育効果を考慮し、吉野講師(兼任)を担当者として追加(28)	
	英語演習6	2後	1					1				兼2 教育効果を考慮し、石川講師(兼任)を担当者として追加(29) 兼1 教育効果を考慮し、吉野講師(兼任)を担当者として追加(28)	
	国際関係論	2前	2			1							
	国際協力論	2後	2			1		0					石崎専任講師が病氣療養中につき、長田専任教授を採用(27)
	国際文化支援論	2後	2										兼1
	国際地理論	1後	2										兼1
	開発社会学	2前	2			1							
	文化交流論	2前	2			1							
	国際社会学	2前	2				1	0					人見講師の准教授昇任(29)
	マイリテイ論	2前	2			1		0					
	ジェンダー論	2前	2				1	0					人見講師の准教授昇任(29)
	学科 専門科目	国際移民論	2前	2			1	0					人見講師の准教授昇任(29)
		日中関係論	2前	2			1						
		アジア政治論	2後	2					1				
		国際機構論	2前	2			1						兼0 教育効果を考慮し、長田専任教授に担当変更(27) 兼1
		平和学	2前 2後	2									兼1 教育学上の理由により、開講時期を変更(28)
		農村発展論	未開講 2前	2			1	0					履修希望者がいなかったため、未開講(29) 石崎講師(専任)が病氣療養中につき、担当者を木村教授(専任)に変更(28)
		アジア経済論	2前 2後	2									兼1 教育学上の理由により、開講時期を変更(29)
		国際企業論	3前	2			1	1	1				兼1 石崎講師(専任)の自己都合による退職により、担当者を木村教授(専任)、人見准教授(専任)、佐伯講師(専任)、木船教授(兼任)に変更、オムニバス(29)
文化変容論		3前	2			1							
アジア地域研究1		3前	2			1							
アジア地域研究2		3後	2					1					
国際文化 支援展開科目		文化マネジメント論	2前	2				1	0				人見講師の准教授昇任(29)
		多文化共生社会論	2前 2後	2			1						教育学上の理由により、開講時期を変更(29)
	異文化コミュニケーション論	2前	2									兼1	
	多文化教育論	2後	2			1							
	世界遺産と保全	3前	2			2						教育効果を考慮し、長田教授(専任)を担当者として追加、オムニバス(29)	
	国際環境文化論	3後	2			1							
	国際人権論	2後	2				1	0				人見講師の准教授昇任(29)	
	比較地域生活史	3前	2			1							
	企業文化論	3前 3後	2									兼1 教育学上の理由により、開講時期を変更(29)	
	国際文化 関連科目	比較文化・社会論1	2前	2									兼1
比較文化・社会論2		2後	2									兼1	
メディア文化論		2前	2									兼1	
観光文化論		2後	2									兼1	
現代アジア文化社会論		2前	2			1							
韓国文化社会論		2後	2									兼1	
アメリカ社会文化論		2前	2									兼1	
アメリカ政治経済論		2後	2									兼1	
ヨーロッパ文化総論		2前	2									兼1	
環太平洋地域文化論		3後 3前	2			2						教育学上の理由により、開講時期を変更(29) オムニバス	
イスラム文化圏論		3後	2									兼1	
開発経済学		2後	2					0				兼1 石崎講師(専任)が病氣療養中につき、担当者を史講師(兼任)に変更(28)	
国際福祉論		2前	2			1						兼0 教育効果を考慮し、長田専任教授に担当変更(27)	
NPO・NGO論	2後	2					1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
国際文化関連科目	英米文学概論1	2後 2前		2								兼	教学上の理由により、開講時期を変更(29)	
	英米文学概論2	2後		2								兼		
	英米文学講義1	2前		2								兼		
	英米文学講義2	2後		2								兼		
	英文学史	2前 2後		2								兼	教学上の理由により、開講時期を変更(28)	
	米文学史	2後		2								兼		
	留學科目	海外事情1	1・2・3・4前・後		2		1						集中	
	留學科目	海外事情2	1・2・3・4前・後		2		1						集中	
	留學科目	海外事情3	1・2・3・4前・後		2		1						集中	
	留學科目	海外事情4	1・2・3・4前・後		2		1						集中	
学科専門科目	国際協力実践論1	1・2・3前		2		3 2	2 1	1 3					人見講師の准教授昇任及び石崎講師(専任)の自己都合による退職(29) 石崎専任講師が病氣療養中につき、長田専任教授を採用(27)	
	国際協力実践論2	1・2・3後		2		4 3 2	2 1	1 3					人見講師の准教授昇任及び石崎講師(専任)の自己都合による退職。教育効果を考慮し、木村教授(専任)を担当者として追加(29) 石崎専任講師が病氣療養中につき、長田専任教授を採用(27)	
	国際協力基礎演習1	2前	2			4 3	2 1	1 3					人見講師の准教授昇任及び石崎講師(専任)の自己都合による退職(29) 石崎専任講師が病氣療養中につき、長田専任教授を採用(27)	
	国際協力基礎演習2	2後	2			4 3	2 1	1 3					人見講師の准教授昇任及び石崎講師(専任)の自己都合による退職(29) 石崎専任講師が病氣療養中につき、長田専任教授を採用(27)	
	国際協力演習	3~4通	8			5 4	2 1	2 3					人見講師の准教授昇任及び石崎講師(専任)の自己都合による退職。教育効果を考慮し、工藤講師(専任)を担当者として追加(29) 石崎専任講師が病氣療養中につき、長田専任教授を採用(27)	

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
  - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼○」と記入してください。
  - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
  - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

## (2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 22	科目 218	科目 0	科目 240	科目 [0]	科目 [0]	科目 [0]	科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	実用統計学	2	1・2・3・4	一般	選択	秋元教授(兼担)の定年退職により未開講。代替措置なし。次年度開講の予定で調整を進めている。
2	環境科学	2	1・2・3・4	一般	選択	杉山講師(兼任)の本務の関係により、科目担当ができず、未開講。代替措置なし。次年度開講の予定で調整を進めている。

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
	該当なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「実用統計学」は秋元教授(兼担)の定年退職により未開講。「環境科学」は杉山講師(兼任)の本務の関係により、科目担当ができず、未開講。いずれの科目も次年度開講の予定で調整を進めている。上記の未開講科目について、学生に対しては履修登録システムにおいて周知をしている。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{2}{240} = \boxed{0.83}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	その他に校舎敷地とする 空地を含んでいたため訂 正した。また、その他に 法人所有地を含んでいた ため控除した。(27) 校舎敷地を取得した。 (28)			
	校 舎 敷 地	234,924.84 225,418.99 m <sup>2</sup> 144,021.00	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	234,924.84 225,418.99 m <sup>2</sup> 144,021.00				
	運 動 場 用 地	83,493.78 81,632.00 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	83,493.78 81,632.00 m <sup>2</sup>				
	小 計	318,418.62 308,912.77 m <sup>2</sup> 225,653.00	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	318,418.62 308,912.77 m <sup>2</sup> 225,653.00				
	そ の 他	64,445.76 481,773.53 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	64,445.76 481,773.53 m <sup>2</sup>				
	合 計	382,864.38 373,358.53 m <sup>2</sup> 407,426.53	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	382,864.38 373,358.53 m <sup>2</sup> 407,426.53				
(2) 校 舎	専 用	80,331.90m <sup>2</sup> 74,094.01m <sup>2</sup> 74,102.73m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	80,331.90m <sup>2</sup> 74,094.01m <sup>2</sup> 74,102.73m <sup>2</sup>	平成27年1月竣工の新校舎 の面積を、建築面積から登 記上の面積に修正した。 (27) 平成30年9月竣工予定の新 校舎を予定数値に加えた (29)			
		(74,094.01m <sup>2</sup> ) (74,102.73m <sup>2</sup> )	( 0m <sup>2</sup> )	( 0m <sup>2</sup> )	(74,094.01m <sup>2</sup> ) (74,102.73m <sup>2</sup> )				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	95室	82室	27室	6室 (補助職員 0人)	8室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数		平成27年4月、専任教授1 名を新規採用のため (27) 専任講師1名が自己都合退 職のため(29)				
	国際文化学部国際文化学科		9 10 9 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	平成27年度報告漏れのため、 2年分の変更を記載 (28)	
	国際文化学部	115,443[32,995] 111,019[32,647] (115,557[32,890]) (113,994[32,818]) (112,660[32,738]) (111,019[32,647])	1,060[495]	400[400]	1,898 (1,809) (1,728) (1,694) (1,642)	1,612	0 (0)		
	計	115,443[32,995] 111,019[32,647] (115,557[32,890]) (113,994[32,818]) (112,660[32,738]) (111,019[32,647])	1,060[495]	400[400]	1,898 (1,809) (1,728) (1,694) (1,642)	1,612	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積	5,907.13 m <sup>2</sup>	閱 覧 座 席 数	906 869 857 778	収 納 可 能 冊 数	550,000	平成27年度報告漏れのため、 2年分の変更を記載。 平成27年度、平成28年度と もに瀬戸図書館の席数増 加(28) 平成28年度瀬戸図書館の 席数増加(29)		
	面 積	6,711.52 m <sup>2</sup>	体育館以外のスポーツ施設の概要 野球場1面、屋内プール1面、テニスコート17面、ゴルフ練習場1面他						
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費は大学全体 で配分
		教員1人当り研究費等	680千円	680千円	図書購入費	5,270千円	5,270千円	5,270千円	
	共 同 研 究 費 等	3,697千円	3,697千円	設備購入費	0千円	0千円	0千円		
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
学生納付金以外の維持方法の概要	補助金収入、手数料収入、雑収入等								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

#### 4 既設大学等の状況

大学の名称	名古屋学院大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入学員	収容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
経済学部						1.17			
経済学科	4	250	-	1,050	学士(経済学)	1.17	昭和39年度	愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番25号	平成27年度より3年次編入学定員(10)廃止、入学定員を300から250に変更。
総合政策学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	平成12年度	同上	平成27年度より学生募集停止
現代社会学部						1.00			
現代社会学科	4	150	-	300	学士(現代社会)	1.00	平成27年度	同上	
商学部						1.12			
商学科	4	200	-	800	学士(商学)	1.15	平成4年度	同上	平成27年度より3年次編入学定員(5)廃止
経営情報学科	4	100	-	400	学士(商学)	1.09	平成15年度	同上	
法学部						1.17			
法学科	4	150	-	600	学士(法学)	1.17	平成25年度	同上	
外国語学部						1.17			
英米語学科	4	140	-	560	学士(文学)	1.17	平成元年度	同上	
中国コミュニケーション学科	4	-	-	-	学士(文学)	-	平成元年度	同上	平成27年度より学生募集停止
国際文化協力量科	4	-	-	-	学士(文学)	-	平成17年度	同上	平成27年度より学生募集停止
国際文化学部						0.97			
国際文化学科	4	100	-	300	学士(国際文化)	1.09	平成27年度	同上	
国際協力量科	4	50	-	150	学士(国際文化)	0.73	平成27年度	同上	
スポーツ健康学部						1.12			
スポーツ健康学科	4	120	-	480	学士(スポーツ健康)	1.26	平成22年度	愛知県瀬戸市上品野町1350番地	
こどもスポーツ教育学科	4	50	-	100	学士(こどもスポーツ教育)	0.59	平成27年度	同上	
リハビリテーション学部						1.11			
理学療法学科	4	80	-	320	学士(理学療法)	1.11	平成22年度	同上	

大学の名称	名古屋学院大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
経済経営研究科									
経済学専攻 修士課程	2	7	-	14	修士 (経済学)	0.63	平成9年度	愛知県名古屋市熱田区大宝三丁目1番17号	
経営政策専攻 博士前期課程	2	20	-	40	修士 (経営学)	0.75	平成9年度	同上	
経営政策専攻 博士後期課程	3	5	-	15	博士 (経営学)	0.26	平成11年度	同上	
外国語学研究科									
英語学専攻 修士課程	2	7	-	14	修士 (英語学)	0.14	平成9年度	同上	
国際文化協力専攻 修士課程	2	5	-	10	修士 (国際文化協力)	0.20	平成21年度	同上	
英語学専攻 博士前期課程 (通信教育課程)	2	20	-	40	修士 (英語学)	0.92	平成13年度	同上	
英語学専攻 博士後期課程 (通信教育課程)	3	3	-	9	博士 (英語学)	0.77	平成20年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。  
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
  - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
  - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
  - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

## 5 教員組織の状況

<国際文化学部 国際協力学科>

### (1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授 (学部長)	木村 光伸	平成27年4月	生態学 グローバル社会文化論 ※ 国際環境論 文化交流論  世界遺産と保全 国際環境文化論 比較地域生活史 環太平洋地域文化論 ※ 海外事情1 海外事情2 海外事情3 海外事情4  国際協力演習	専	教授 (学部長)	木村 光伸	平成27年4月	生態学 グローバル社会文化論 ※ 国際環境論 文化交流論  <b>農村発展論</b>  <b>国際企業論 ※</b>  <b>世界遺産と保全 ※</b> 国際環境文化論 比較地域生活史 環太平洋地域文化論 ※ 海外事情1 海外事情2 海外事情3 海外事情4  <b>国際協力実践論2</b> 国際協力演習	履修希望者がいなかったため、未開講(29) 石崎講師が病氣療養中につき、当該科目を担当(28) 石崎講師の退職により、後任として当該科目を担当。オムニバスで開講  長田教授(専任)とオムニバスで開講  石崎講師の退職により、後任として当該科目を担当(29)
専	教授	増田 あゆみ	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 国際関係論入門 国際政治学 国際関係論 マイノリティ論 文化変容論 アジア地域研究1 環太平洋地域文化論 ※ 国際協力実践論1 国際協力実践論2 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習						
専	教授	矢澤 雅	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 現代社会と教育  教職論 教育原理 教育制度論 多文化教育論 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習	専	教授	矢澤 雅	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー  <b>現代社会と教育</b>  教職論 教育原理 教育制度論 多文化教育論 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習	教学上の理由により、担当を外れたが、松本講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(29)
専	教授	佐竹 眞明	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー  アジア言語入門1 国際文化論 ※ 開発社会学 多文化共生社会論 現代アジア文化社会論 国際協力実践論1 国際協力実践論2 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習	専	教授	佐竹 眞明	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー  <b>アジア言語入門1</b> 国際文化論 ※ 開発社会学 多文化共生社会論 現代アジア文化社会論 国際協力実践論1 国際協力実践論2 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習	教学上の理由により、担当を外れたが、佐伯講師(専任)が担当するため教育上支障はない(29)
					専	教授	長田 こずえ	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 国際協力論 国際機構論 <b>世界遺産と保全 ※</b> 国際福祉論 国際協力実践論1 国際協力実践論2 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習	石崎講師が病氣療養中につき、左記科目の担当として採用し、教育の質の維持を図った(27)  <b>教育効果を考慮し、当該科目の専任教員に変更。木村教授(専任)とオムニバスで開講(29)</b>

設置時の計画				変更状況				備考	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月		
専	准教授	中田 昭一	平成27年4月						
専	講師	工藤 泰三	平成27年4月	専	講師	工藤 泰三	平成27年4月	英会話1 英会話2 基礎英語1 基礎英語2 英語演習1 英語演習2 英語演習3 英語演習4 英語演習5 英語演習6 国際協力演習	教育効果を考慮し、当該科目の専任教員に変更(29)
専	講師	佐伯 奈津子	平成27年4月	専	講師	佐伯 奈津子	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー アジア言語入門1 アジア言語入門2 アジア政治論 国際企業論 ※ アジア地域研究2 NPO・NGO論 国際協力実践論1 国際協力実践論2 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習	教育効果を考慮し、当該科目の専任教員に変更(29)  石崎講師の退職により、後任として当該科目を担当。オムニバスで開講
専	講師	石崎 程之	平成27年4月	専	講師	石崎 程之	平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 国際協力論 農村発展論 国際企業論 開発経済学 国際協力実践論1 国際協力実践論2 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習	自己都合により退職。後任未定であった「国際企業論」は木村教授(専任)、人見准教授(専任)、佐伯講師(専任)、木船教授(兼任)がオムニバス方式で担当(29) 病気療養中のため後任未定であった「農村発展論」は木村教授、「開発経済学」は史講師(兼任)が担当。次年度開講の「国際企業論」は現在調整中(28) 病気療養中のため、現在「基礎セミナー」「発展セミナー」を長田教授が担当。「国際協力論」「国際協力実践論1・2」「国際協力基礎演習1・2」「国際協力演習」も長田教授に移行予定。「農村発展論」「国際企業論」「開発経済学」は後任未定であり現在調整中(27)
専	講師	人見 泰弘	平成27年4月	専	准教授 講師	人見 泰弘	平成29年4月 平成27年4月	基礎セミナー 発展セミナー 国際社会学 ジェンダー論 国際移民論 国際企業論 ※ 文化マネジメント論 国際人権論 国際協力実践論1 国際協力実践論2 国際協力基礎演習1 国際協力基礎演習2 国際協力演習	准教授に承認(29)  石崎講師の退職により、後任として当該科目を担当。オムニバスで開講
兼任	教授	水野 晶夫	平成27年4月	兼任	教授	水野 晶夫	平成27年4月	ポランディア学 ポランディア学 地域商業まちづくり学 地域商業まちづくり演習 上級まちづくり演習	本年度開講(29) 教学上の理由により、未開講(28)
兼任	教授	松永 公廣	平成27年4月	兼任	教授	松永 公廣	平成27年4月	インターンシップ1 インターンシップ2 インターンシップ1 インターンシップ2	教学上の理由により、高木教授(兼任)に担当者変更(29)
兼任	教授	持田 辰郎	平成27年4月					哲学 哲学史	
兼任	教授	早川 厚一	平成27年4月					日本文学 日本文学史	

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	教授	谷口 篤	平成27年4月	心理学概論 教育心理学概論1 教育心理学概論2 教育の方法と技術 教育相談	兼任	教授	谷口 篤	平成27年4月	心理学概論 教育心理学概論1 教育心理学概論2 教育の方法と技術 教育相談	教学上の理由により、担当を外れたが、中島准教授(兼任)、加藤講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	教授	今村 薫	平成27年4月	文明論 人類学 文化人類学入門	兼任	教授	今村 薫	平成27年4月	文明論 人類学 文化人類学入門	教学上の理由により、竹ノ下講師(兼任)に担当者変更(29)
兼任	教授	伊沢 俊泰	平成27年4月	現代社会と経済 企業と社会	兼任	教授	伊沢 俊泰	平成27年4月	現代社会と経済 企業と社会	教学上の理由により、黒田准教授(兼任)、村上准教授(兼任)に担当者変更(27)
兼任	教授	宝島 格	平成27年4月	数学 数理科学 基礎統計学						
兼任	教授	秋元 浩一	平成27年4月	実用統計学	兼任	教授	秋元 浩一	平成27年4月	実用統計学	定年退職し、後任未定のため未開講。次年度開講に向けて調整中(29)
兼任	教授	曾我 良成	平成27年4月	日本史 日本史概説 日本文化論						
兼任	教授	荻原 隆	平成27年4月	日本思想史						
兼任	教授	黄 名時	平成27年4月	中国文化入門 考古学入門 実践中国語1 実践中国語2 国際文化論 ※						
兼任	教授	菅野 光公	平成27年4月	英米文化入門	兼任 兼任	講師 教授	菅野 光公	平成28年4月	英米文化入門	契約満了による退職のため、兼任講師として担当(28)
兼任	教授	井澤 知旦	平成27年4月	減災福祉まちづくり学 減災福祉まちづくり演習 上級まちづくり演習	兼任	教授	井澤 知旦	平成27年4月	地域商業まちづくり学 減災福祉まちづくり学 減災福祉まちづくり演習 上級まちづくり演習	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27) 教学上の理由により、越智講師(兼任)に担当者変更(27)  教学上の理由により、担当を外れたが、水野教授(兼任)、越智講師(兼任)、田中講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	教授	近藤 泉	平成27年4月	入門中国語1 入門中国語2 時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 日常中国語1 日常中国語2						
兼任	教授	程 鵬	平成27年4月	情報処理基礎 情報概論						
兼任	教授	土屋 勝彦	平成27年4月	応用ドイツ語1 応用ドイツ語2 国際文化論 ※ グローバル社会文化論 ※ 比較文化・社会論1 ヨーロッパ文化総論	兼任	教授	土屋 勝彦	平成27年4月	応用ドイツ語1 応用ドイツ語2 国際文化論 ※ グローバル社会文化論 ※ 比較文化・社会論1 ヨーロッパ文化総論 入門ドイツ語1 入門ドイツ語2	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員に変更(27)
兼任	教授	樋口 勇夫	平成27年4月	時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 コミュニケーション中国語1 コミュニケーション中国語2	兼任	教授	樋口 勇夫	平成27年4月	時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 コミュニケーション中国語1 コミュニケーション中国語2 基礎中国語1 基礎中国語2	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員に変更(27)
兼任	教授	原田 寿美子	平成28年4月	時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 ビジュアル中国語 中国語検定読解入門 コンピュータ技法1 コンピュータ技法2	兼任	教授	原田 寿美子	平成28年4月	時事中国語1 時事中国語2 応用中国語1 応用中国語2 ビジュアル中国語 中国語検定読解入門 コンピュータ技法1 コンピュータ技法2 基礎中国語1 基礎中国語2	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員に変更(27)

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	教授	鹿毛 敏夫	平成27年4月	日本史概説						
兼任	教授	Ray Thomas Donahue	平成28年4月	異文化コミュニケーション論						
兼任	教授	十名 直喜	平成29年9月	企業文化論						
兼任	教授	Paul Dveraux McGrath	平成28年4月	英米文学概論1 英米文学講義1 英米文学講義2	兼任	教授	西村 美保	平成29年4月	英米文学概論1 英米文学講義1 英米文学講義2	定年退職により、後任として科目を担当(29)
兼任	教授	米山 雅浩	平成28年4月	英米文学概論2						
兼任	准教授	大宮 有博	平成27年4月	ボランティア演習 死生学※ 人権と社会 生命倫理※ 道德教育論	兼任	准教授	大宮 有博	平成27年4月	ボランティア演習 死生学※ 人権と社会 生命倫理※ 道德教育論 ボランティア学 聖書と人間	割愛による退職のため、以下のとおり担当者変更(28) ボランティア演習:越智講師(兼任)、玉川准教授(兼任)、山下講師(兼任) 聖書と人間:杉本講師(兼任)、日沖講師(兼任) 教学上の理由により、ボランティア学は未開講(28) 教学上の理由により、死生学は村山講師(兼任)、生命倫理は亀井講師(兼任)の単独担当に変更。人権と社会は神田講師(兼任)に変更(27) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
兼任	准教授	金 愛慶	平成27年4月	臨床心理学 韓国文化社会論	兼任	教授 准教授	金 愛慶	平成28年4月	臨床心理学 韓国文化社会論	教授に昇任(28)
兼任	准教授	飯島 滋明	平成27年4月	平和学入門 平和学	兼任	教授 准教授	飯島 滋明	平成28年4月	平和学入門 平和学	教授に昇任。教学上の理由により、担当を外れるが、中原講師(兼任)が担当するため教育上支障はない
兼任	准教授	鈴木 啓司	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 応用フランス語1 応用フランス語2 比較文化・社会論2	兼任	准教授	鈴木 啓司	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 応用フランス語1 応用フランス語2 比較文化・社会論2 時事フランス語1 時事フランス語2 実践フランス語1 実践フランス語2	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28) 教育効果を考慮し、当該科目の専任教員に変更(29)
兼任	准教授	新多 了	平成28年4月	留学英語中級						
兼任	准教授	山本 淑雄	平成28年4月	時事ドイツ語1 時事ドイツ語2	兼任	准教授	山本 淑雄	平成28年4月	時事ドイツ語1 時事ドイツ語2 基礎ドイツ語1 基礎ドイツ語2	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員に変更(27)
兼任	准教授	河原林 直人	平成28年4月	アジア経済論						
兼任	講師	黒柳 志仁	平成27年4月	キリスト教概説 キリスト教文化論1 キリスト教文化論2 比較宗教論 宗教と平和						
兼任	講師	安藤 りか	平成27年4月	キャリアデザイン1a キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b キャリアデザイン3a キャリアデザイン3b	兼任	准教授 講師	安藤 りか	平成28年4月 平成27年4月	キャリアデザイン1a キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b キャリアデザイン3a キャリアデザイン3b	准教授に昇任(28) 教学上の理由により、キャリアデザイン1aは石井講師(兼任)、キャリアデザイン1bは上本講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	江利川 良枝	平成28年4月	キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b						

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	講師	玉川 貴子	平成27年4月	死生学※	兼任	准教授 講師	玉川 貴子	平成28年4月 平成27年4月	死生学※ ボランティア演習	准教授に昇任(28) 教学上の理由により、死生学は村山講師(兼任)の単独担当に変更(27) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
兼任	講師	宮坂 清	平成27年4月	社会学入門 宗教社会学 文化人類学入門 文化人類学	兼任	准教授 講師	宮坂 清	平成29年4月 平成27年4月	社会学入門 宗教社会学 文化人類学入門 文化人類学	准教授に昇任(29)
兼任	講師	齊藤 久美子	平成27年4月	生物学	兼任	准教授 講師	齊藤 久美子	平成29年4月 平成27年4月	生物学	准教授に昇任(29)
兼任	講師	小林 記之	平成27年4月	地球科学概論 地球物理学概論 物理学 地球環境学	兼任	准教授 講師	小林 記之	平成28年4月	地球科学概論 地球物理学概論 物理学 地球環境学	准教授に昇任(28)
兼任	講師	吉田 達矢	平成27年4月	世界の近現代史 世界史 イスラム文化圏論	兼任	講師	吉田 達矢	平成27年4月	世界の近現代史 世界史 イスラム文化圏論  国際社会問題	教学上の理由により、担当を外れるが、中原講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
兼任	講師	伊藤 幹	平成27年4月	健康の科学 スポーツの科学 スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B スポーツ上級A スポーツ上級B						
兼任	講師	田中 智麻	平成27年4月	歴史観光まちづくり学 歴史観光まちづくり演習 上級まちづくり演習	兼任	講師	田中 智麻	平成27年4月	歴史観光まちづくり学 歴史観光まちづくり演習 上級まちづくり演習 インターンシップ1 インターンシップ2	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
兼任	講師	玉田 沙織	平成27年4月	日本語表現上級	兼任	講師	濱野 寛子	平成27年4月	日本語表現上級	玉田講師自己都合退職により、担当者を変更(27)
兼任	講師	川越 めぐみ	平成27年4月	日本語表現上級	兼任	講師	川崎 めぐみ 川越—めぐみ	平成29年4月 平成27年4月	日本語表現上級  日本語表現上級	姓の変更(29) 休職明けにより、当該科目の担当復帰(29) 休職のため担当を外れるが、日本語表現上級は濱野講師(兼任)、永井講師(兼任)、堅田講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	講師	市川 新剛	平成28年4月	留学英語上級	兼任	准教授 講師	市川 新剛	平成28年4月	留学英語上級	准教授に昇任(28)
兼任	講師	野尻 洋平	平成28年4月	メディア文化論	兼任	講師	野尻 洋平	平成27年4月 平成28年4月	メディア文化論  社会学入門	平成27年度より社会学入門を担当しているため就任予定年月を修正(28) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
兼任	講師	北垣 創	平成27年4月	キリスト教と文学 キリスト教史						
兼任	講師	志村 真	平成27年4月	キリスト教と文化 宗教と人間 聖書と人間 比較宗教学	兼任	講師	志村 真	平成27年4月	キリスト教と文化 宗教と人間 聖書と人間 比較宗教学	教学上の理由により、担当を外れるが、日沖講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教学上の理由により、宗教と人間・比較宗教学は村山講師(兼任)、聖書と人間は大宮准教授(兼任)・日沖講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	石田 聖実	平成28年4月	キリスト教倫理 キリスト教人間学	兼任	講師	石田 聖実	平成28年4月	キリスト教倫理 キリスト教人間学	教学上の理由により、葛井教授(兼任)に担当者変更(29)
兼任	講師	石井 邦彦	平成27年4月	キャリアデザイン1a						
兼任	講師	丹山 美香	平成27年4月	キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b	兼任	講師	丹山 美香	平成27年4月	キャリアデザイン1b キャリアデザイン2a キャリアデザイン2b	上本講師(兼任)に担当変更(27)
兼任	講師	加藤 智宏	平成27年4月	心理学概論						

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	講師	亀井 美穂	平成27年4月	死生学※ 生命倫理※	兼任	講師	亀井 美穂	平成27年4月	死生学※ 生命倫理※	教学上の理由により、担当を外れるが、文准教授(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教学上の理由により、死生学は村山講師(兼任)の単独担当に変更。生命倫理はオムニバスから単独担当に変更(27)
兼任	講師	玉木 満	平成27年4月	日本国憲法 現代社会と法律						
兼任	講師	中原 聖乃	平成27年4月	国際社会問題	兼任	講師	中原 聖乃	平成27年4月	国際社会問題 平和学	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
兼任	講師	長 昌史	平成27年4月	化学						
兼任	講師	八木 三生	平成27年4月	陶芸論 陶芸演習						
兼任	講師	稲垣 隆司	平成27年4月	環境科学	兼任	講師	杉山 範子	平成28年4月	環境科学	本務の関係で科目担当ができず、未開講。次年度開講に向けて調整中 後任の教員を採用し、本年度より当該科目の担当(28) 本務の関係で科目担当ができず、未開講。次年度からの就任が難しいため、現在、後任(兼任)を選考中(27)
兼任	講師	米川 直樹	平成27年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級B	兼任	講師	米川 直樹	平成27年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
兼任	講師	市野 聖治	平成28年4月	スポーツ中級A スポーツ中級B	兼任	講師	市野 聖治	平成28年4月	スポーツ中級A スポーツ中級B	教学上の理由により、津田教授(兼任)に担当者変更(29)
兼任	講師	河村 英子	平成27年4月	日本語表現	兼任	講師	岡山 高博	平成28年4月	日本語表現	教学上の理由により、河村講師(兼任)より担当者変更(28)
兼任	講師	永井 圭司	平成27年4月	日本語表現上級						
兼任	講師	野々山 富士江	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2	兼任	講師	石川 香代子	平成27年4月	基礎英語1 基礎英語2 TOEIC英語基礎1 TOEIC英語基礎2 英語演習5 英語演習6	教学上の理由により、当該科目の担当復帰(29) 教学上の理由により、担当を外れるが、基礎英語1.2は工藤講師(専任)、小杉講師(兼任)が担当するため、教育上支障はない(28) 教学上の理由により、担当者の変更 教学上の理由により、高橋講師(兼任)の代わりに科目を担当(29) 教育効果を考慮して、当該科目の担当教員として追加(29)
兼任	講師	N. ルツ	平成27年4月	英会話1 英会話2	兼任	講師	N. ルツ	平成27年4月	英会話1 英会話2	履修者数の減少により、望月講師(兼任)・吉野講師(兼任)に担当変更
兼任	講師	M.A.ダアノイ	平成27年4月	英会話1 英会話2	兼任	講師	M.A.ダアノイ	平成27年4月	英会話1 英会話2	
兼任	講師	G. M. マクレラン	平成27年4月	英会話1 英会話2	兼任	講師	G. M. マクレラン	平成27年4月	英会話1 英会話2	履修者数の減少により、望月講師(兼任)・吉野講師(兼任)に担当変更
兼任	講師	保坂 和宣	平成27年4月	入門ドイツ語1 入門ドイツ語2 基礎ドイツ語1 基礎ドイツ語2 実践ドイツ語1 実践ドイツ語2	兼任	講師	保坂 和宣	平成27年4月	入門ドイツ語1 入門ドイツ語2 基礎ドイツ語1 基礎ドイツ語2 実践ドイツ語1 実践ドイツ語2	教育効果を考慮し、入門ドイツ語1.2は土屋教授(兼任)、基礎ドイツ語1.2は山本准教授(兼任)に担当変更

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	講師	下村 武	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 時事フランス語1 時事フランス語2	兼任	講師	下村 武	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 時事フランス語1 時事フランス語2	教学上の理由により、実践フランス語1.2は鈴木教授(兼任)、小林講師(兼任)に担当者変更(29) 教学上の理由により、担当を外れるが、時事フランス語1.2は鈴木准教授(兼任)、ルヌウ講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	講師	鈴木 球子	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 実践フランス語1 実践フランス語2	兼任	講師	鈴木 球子	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 基礎フランス語1 基礎フランス語2 実践フランス語1 実践フランス語2	教育効果を考慮し、入門フランス語1.2は鈴木准教授(兼任)・湯浅講師(兼任)、基礎フランス語1.2は鈴木准教授(兼任)・河脇講師(兼任)に担当者変更(27)
兼任	講師	重松 由美	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	兼任	講師	重松 由美	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	教学上の理由により、実践スペイン語1.2は内田講師(兼任)、梅田講師(兼任)に担当者変更(29) 教学上の理由により、担当を外れるが、時事スペイン語1.2は木下講師(兼任)、梅田講師(兼任)が、応用スペイン語1.2は内田講師(兼任)、渡辺講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	講師	寺澤 宏美	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	兼任	講師	寺澤 宏美	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	教学上の理由により、入門スペイン語1.2は梅田講師(兼任)・木下講師(兼任)、基礎スペイン語1.2は内田講師(兼任)・櫻井講師(兼任)に担当者変更(27)
兼任	講師	史念	平成27年4月	入門中国語1 入門中国語2	兼任	講師	史念	平成27年4月	入門中国語1 入門中国語2 開発経済学	履修人数の減少により、中田准教授(専任)・近藤教授(兼任)に担当者変更 病氣療養中の石崎講師(専任)に代わり担当(28)
兼任	講師	王 麗英	平成27年4月	基礎中国語1 基礎中国語2	兼任	講師	王 麗英	平成27年4月	基礎中国語1 基礎中国語2	教育効果を考慮し、基礎中国語1.2は原田教授(兼任)・樋口教授(兼任)に担当者変更(27)
兼任	講師	陳 泰銀	平成27年4月	基礎中国語1 基礎中国語2	兼任	講師	陳 泰銀	平成27年4月	基礎中国語1 基礎中国語2	
兼任	講師	金 檉	平成27年4月	入門韓国語1 入門韓国語2 基礎韓国語1 基礎韓国語2						
兼任	講師	今村 彩子	平成27年4月	手話入門 手話基礎						
兼任	講師	犬塚 文雄	平成28年4月	特別活動論	兼任 教授 兼任	教授 講師	犬塚 文雄	平成28年4月	特別活動論	兼任教授として採用(28)
兼任	講師	永田 国豊	平成28年4月	生徒・進路指導論	兼任	講師	永田 国豊	平成28年4月	生徒・進路指導論	
兼任	講師	吉野 勇夫	平成28年4月	国際文化理解英語1 国際文化理解英語2 ビジネス英語1 ビジネス英語2 アメリカ社会文化論 アメリカ政治経済論	兼任	講師	吉野 勇夫	平成28年4月	国際文化理解英語1 国際文化理解英語2 ビジネス英語1 ビジネス英語2 アメリカ社会文化論 アメリカ政治経済論 英会話1 英会話2 英語演習1 英語演習2 英語演習5 英語演習6	履修人数の減少により、当該科目の担当者として変更(27) 教学上の理由により、英語演習5.6は山之内講師(兼任)に担当者変更 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	講師	山之内 健太	平成27年4月	TOEIC英語入門 TOEIC英語基礎1 TOEIC英語基礎2 TOEIC英語実践1 TOEIC英語実践2	兼任	講師	山之内 健太	平成27年4月	TOEIC英語入門 TOEIC英語入門 TOEIC英語基礎1 TOEIC英語基礎2 TOEIC英語実践1 TOEIC英語実践2 英語演習3 英語演習4 英語演習5 英語演習6	当該科目の担当復帰(28) 教学上の理由により、TOEIC英語入門は原口講師(兼任)に担当変更  教学上の理由により、担当を外れるが、TOEIC英語基礎1.2は高橋講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)  教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28) 教学上の理由により、吉野講師(兼任)の代わりに科目を担当(29)
兼任	講師	イラリオ ロサリオ	平成28年4月	時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	兼任	講師	イラリオ ロサリオ	平成28年4月	時事スペイン語1 時事スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	教学上の理由により、担当を外れるが、時事スペイン語1.2は木下講師(兼任)、梅田講師(兼任)が、応用スペイン語1.2は内田講師(兼任)、渡辺講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28)  教学上の理由により、実践スペイン語1.2は内田講師(兼任)、梅田講師(兼任)に担当者変更(29)
兼任	講師	高橋 晃子	平成28年4月	国際文化支援論 国際機構論	兼任	講師	高橋 晃子	平成28年4月	国際文化支援論 国際機構論	教学上の理由により、担当を外れるが、長田教授(専任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	講師	林 上	平成27年4月	国際地理論						
兼任	講師	森 正己	平成28年4月	観光文化論	兼任	教授 准教授	山本 真嗣	平成28年4月	観光文化論	教授に昇任(29) 教学上の理由により、森講師(兼任)より担当者変更(28)
兼任	講師	島津 侑希	平成28年4月	国際福祉論	兼任	講師	島津 侑希	平成28年4月	国際福祉論	教学上の理由により、担当を外れるが、長田教授(専任)が担当するため教育上支障はない(28)
兼任	講師	望月 節子	平成28年4月	英文学史 米文学史	兼任	講師	望月 節子	平成28年4月	英文学史 米文学史 英会話1 英会話2	教学上の理由により、担当を外れるが、英会話1.2は吉野講師(兼任)が担当するため教育上支障はない  履修人数の減少により、当該科目の担当者として変更(27)
					兼任	教授	岡澤 憲一郎	平成27年4月	社会学入門 宗教社会学	定年退職により、担当を外れるが、社会学入門は宮坂講師(兼任)、早川教授(兼任)、野尻講師(兼任)が、宗教社会学は宮坂講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	教授	早川 洋行	平成27年4月	社会学入門	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	教授	津田 誠	平成27年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B	教学上の理由により、当該科目の担当復帰(29)  教学上の理由により、担当を外れたが、他の教員(4名)が担当するため教育上支障はない(28) 教育効果を考慮して、当該科目の担当教員として追加(27)  教学上の理由により、市野講師(兼任)の代わりに科目を担当(29)
					兼任	准教授	中島 誠	平成27年4月	心理学概論	教学上の理由により、担当を外れるが、加藤講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(29) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	准教授	榎澤 幸広	平成27年4月	日本国憲法 現代社会と法律	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	准教授	黒田 知宏	平成27年4月	現代社会と経済	教学上の理由により、木船教授(兼任)に担当者変更(29) 教学上の理由により、伊沢教授(兼任)から担当変更(27)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任・の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任・の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼担	准教授	村上 寿来	平成27年4月	現代社会と経済 企業と社会	教学上の理由により、担当を外れるが、伊沢教授(兼担)が担当するため教育上支障はない(29) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼担	准教授	濱 満久	平成27年4月	地域商業まちづくり学	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼担	准教授	松本 浩司	平成27年4月	現代社会と教育	教学上の理由により、矢澤教授(兼担)から担当変更(27)
					兼担	講師	山下 匡将	平成27年4月	ボランティア演習	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼担	講師	越智 祐子	平成27年4月	減災福祉まちづくり学 減災福祉まちづくり演習 ボランティア演習 上級まちづくり演習	教学上の理由により、井澤教授(兼担)から担当変更(27) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
					兼任	講師	上本 裕子	平成27年4月	キャリアデザイン1b	履修人数の減少により、安藤講師(兼担)、丹山講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	日沖 直子	平成27年4月	聖書と人間 キリスト教と文化 宗教と人間 比較宗教学	教学上の理由により、志村講師(兼任)から担当変更(27) 教学上の理由により、志村講師(兼任)から担当変更(28) 教学上の理由により、村山講師(兼任)から担当変更(28) 教学上の理由により、村山講師(兼任)から担当変更(28)
					兼任	講師	村山 由美	平成27年4月	死生学 宗教と人間 比較宗教学	教学上の理由により、担当を外れたが、死生学は文准教授(兼担)が、宗教と人間、比較宗教学は日沖講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 教学上の理由により、大宮講師(兼担)他のオムニバスを変更し、単独で科目を担当(27) 教学上の理由により、志村講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	神田 浩史	平成27年4月	人権と社会	教学上の理由により、大宮講師(兼担)から担当変更(27)
					兼任	講師	上野 史朗	平成27年4月	日本史	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	講師	坪田 暢允	平成27年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B	教学上の理由により、担当を外れるが、他の教員(4名)が担当するため教育上支障はない(28) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27)
					兼任	講師	小杉 花代	平成27年4月	英語演習1 英語演習2 英語演習3 英語演習4 基礎英語1 基礎英語2	教学上の理由により、担当を外れるが、英語演習1.2は工藤講師(専任)、吉野講師(兼任)が担当するため、教育上支障はない(28) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(27) 教学上の理由により、原口講師(兼任)から担当者変更(29) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
					兼任	講師	湯浅 康正	平成27年4月	入門フランス語1 入門フランス語2	教学上の理由により、担当を外れるが、鈴木准教授(兼担)、ルヌウ講師(兼任)が担当するため教育上支障はない(28) 履修人数の減少により、下村講師(兼任)、鈴木講師(兼任)から担当変更(27)
					兼任	講師	河脇 都美	平成27年4月	基礎フランス語1 基礎フランス語2 応用フランス語1 応用フランス語2	履修人数の減少により、下村講師(兼任)、鈴木講師(兼任)から担当変更(27) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼任	講師	梅田 美代子	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)から担当変更  教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)、ロサリオ講師(兼任)から担当変更(28)  教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)、ロサリオ講師(兼任)から担当者変更(29)
					兼任	講師	木下 智統	平成27年4月	入門スペイン語1 入門スペイン語2 時事スペイン語1 時事スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)から担当変更  教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)、ロサリオ講師(兼任)から担当変更(28)
					兼任	講師	内田 千重子	平成27年4月	基礎スペイン語1 基礎スペイン語2 応用スペイン語1 応用スペイン語2 実践スペイン語1 実践スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)から担当変更  教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)、ロサリオ講師(兼任)から担当変更(28)  教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)、ロサリオ講師(兼任)から担当者変更(29)
					兼任	講師	櫻井 里香	平成27年4月	基礎スペイン語1 基礎スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)から担当変更
					兼任	講師	原口 智子	平成27年4月	TOEIC英語入門 英語演習1 英語演習2 英語演習4	教学上の理由により、担当を外れるが、TOEIC英語入門は山之内講師(兼任)が、英語演習1.2は工藤講師(専任)、吉野講師(兼任)が担当するため、教育上支障はない(28) 教学上の理由により、TOEIC英語入門を山之内講師(兼任)から担当変更。教育効果を考慮し、英語演習1,2の担当教員として追加(27)  教学上の理由により、小杉講師(兼任)に担当者変更(29) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
					兼任	教授	家本 博一	平成28年4月	インターンシップ1 インターンシップ2	教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28)
					兼任	准教授	文 禎順	平成28年4月	死生学 生命倫理 ボランティア学 ボランティア演習	教学上の理由により、村山講師(兼任)より担当変更(28) 教学上の理由により、亀井講師(兼任)より担当変更(28) 教育効果を考慮して、当該科目の担当教員として追加(29)
					兼任	講師	白井 徹	平成28年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B	教学上の理由により、津田教授(兼任)より担当変更(28)
					兼任	講師	Loikku Lunu	平成28年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 時事フランス語1 時事フランス語2	教学上の理由により、小林講師(兼任)に担当者変更(29) 教学上の理由により、湯浅講師(兼任)より担当変更(28) 教学上の理由により、下村講師(兼任)より担当変更(28)
					兼任	講師	鬼頭 伸和	平成28年4月	スポーツ初級A スポーツ初級B スポーツ中級A スポーツ中級B	教学上の理由により、坪田講師(兼任)より担当変更(28)
					兼任	講師	堅田 陽子	平成28年4月	日本語表現上級	教学上の理由により、川崎講師(兼任)に担当者変更(29) 川越講師(兼任)の休職のため、担当変更(28)
					兼任	講師	杉本 和道	平成28年4月	キリスト教倫理 聖書と人間	教学上の理由によりキリスト教倫理は神山講師(兼任)に、聖書と人間は葛井教授(兼任)に担当者変更(29) 教育効果を考慮し、当該科目の担当教員として追加(28) 大宮准教授(兼任)の割愛による退職のため、担当変更(28)
					兼任	講師	渡辺 有美	平成28年4月	応用スペイン語1 応用スペイン語2	教学上の理由により、重松講師(兼任)、寺澤講師(兼任)、ロサリオ講師(兼任)から担当変更(28)
					兼任	講師	高橋 美由紀	平成28年4月	TOEIC英語基礎1 TOEIC英語基礎2	教学上の理由により、石川講師(兼任)に担当者変更(29) 教学上の理由により、山之内講師(兼任)より担当変更(28)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼担	教授	葛井 義憲	平成29年4月	聖書と人間 キリスト教人間学	教学上の理由により、杉本講師(兼任)の代わりに科目を担当(29) 教学上の理由により、石田講師(兼任)の代わりに科目を担当(29)
					兼担	教授	高木 直人	平成29年4月	インターンシップ1 インターンシップ2	教学上の理由により、松永教授(兼担)の代わりに科目を担当(29)
					兼担	教授	木船 久雄	平成29年4月	現代社会と経済 国際企業論 ※	教学上の理由により、黒田准教授(兼担)の代わりに科目を担当(29) 石崎講師の退職により、後任として当該科目を担当。オムニバスで開講
					兼担	講師	神山 美奈子	平成29年4月	キリスト教倫理	教学上の理由により、杉本講師(兼任)の代わりに科目を担当(29)
					兼担	講師	鈴木 一永	平成29年4月	現代社会と法律	教育効果を考慮して、当該科目の担当教員として追加(29)
					兼任	講師	竹ノ下 祐二	平成29年4月	人類学	教学上の理由により、今村教授(専任)の代わりに科目を担当(29)
					兼任	講師	豊平 桂子	平成29年4月	入門中国語1 入門中国語2	教育効果を考慮して、当該科目の担当教員として追加(29)
					兼任	講師	小林 久美子	平成29年4月	入門フランス語1 入門フランス語2 時事フランス語1 時事フランス語2 実践フランス語1 実践フランス語2	教学上の理由により、Lunu講師(兼任)の代わりに科目を担当(29) 教育効果を考慮して、当該科目の担当教員として追加(29)

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 後任が決まっていな場合は、「後任未定」と記入してください。
  - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
  - ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
  - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていな場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
  - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。  
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度( )書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
6 名	3 名

- (注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2)-② 専任教員数

設置時の計画					現在(報告書提出時)の状況					現在(報告書提出時)の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
4	1	4	0	9	5	2	2	0	10	5	2	2	0	9
										[ 1 ]	[ 1 ]	[ Δ2 ]	[ 0 ]	[ 0 ]

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( )内に開設時の状況を記入してください。
- ・ 「現在(報告書提出時)の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
  - ・ 「現在(報告書提出時)の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告書提出時(上記(A))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(B))の教員うち、定年を延長して採用する教員数
70 歳	0 名	0 名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
						該当なし	
合計 (A)				後任補充状況の集計 (B)			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
8	講師	石崎 程之	必修	基礎セミナー	①	病気療養中のため休職していたが、休職期間満了に伴い、平成28年11月自己都合退職により辞任	
			選択	発展セミナー	①		
			必修	国際協力論	①		
			選択	農村発展論	①		
			選択	国際企業論	①		
			選択	開発経済学	②		
			選択	国際協力実践論1	①		
			選択	国際協力実践論2	①		
			必修	国際協力基礎演習1	①		
			必修	国際協力基礎演習2	①		
			必修	国際協力演習	①		
合計 (C)				後任補充状況の集計 (D)			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
1	人	必修	5 科目	必修	5 科目	必修	科目
		選択	6 科目	選択	5 科目	選択	1 科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	11 科目	計	10 科目	計	1 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記(3)－①・(3)－②の合計

合計(A)+(C)			後任補充状況の集計(B)+(D)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
1人	必修	5科目	必修	5科目	必修	科目	必修	科目
	選択	6科目	選択	5科目	選択	1科目	選択	科目
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
	計	11科目	計	10科目	計	1科目	計	科目

(注)・ 就任辞退(未就任)及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任講師1名が病気療養中のため休職していたが、休職期間満了に伴い、平成28年11月自己都合退職により辞任。平成27年4月に専任教授1名の採用により教育の質の維持を図った。また、当該専任講師が担当予定であった科目については他の専任教員及び兼任、兼任教員が担当するため教育上支障はない。開設年度当初より当該専任講師の代わりに他の教員が科目を担当してため、学生への周知は要しない。

(注)・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

## 6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項についての実施計画
設置計画履行状況調査時 (平成29年2月)	国際文化学部国際協力学科の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること	<p style="text-align: center;">改善意見</p> <p>国際協力学科では平成28年度の入学者が22名であったが、以下の取り組みにより平成29年度の入学者は45名となり、定員充足率の平均が0.73に改善された。</p> <p>①前年度に引き続き、大手予備校などのデータを活用し国際学系統志望者へダイレクトメールを配布し、マーケットの拡大を図った。</p> <p>②第8代ユネスコ事務局長であった松浦晃一郎氏を本学特任教授として招聘し、11月22日に公開授業を実施するとともに、学生の海外スタディツアーや海外ボランティアの報告等も実施するなど、本学科の広報活動を推進した。</p> <p>③本学科の教育内容を紹介するパンフレットを新たに制作し、学科のゼミ活動や海外スタディツアーの成果等を取りまとめ、高校訪問、進学相談会等で配布・紹介した。</p> <p>④本学科の学びの内容と意義をわかりやすく伝えられるよう、進学相談会や高校での模擬授業には他学科より優先的に参加した。</p> <p>⑤英検、TOEIC、GTECなど英語関連資格の取得者を対象としたグローバル人材特別入試を新たに導入した。</p> <p>平成29年度においては、以下外国語・国際教育に関するハード・ソフト両面での充実を強くPRするとともに、高大連携の充実を図る取り組みを行い、定員充足を図る。</p> <p>①平成30(2018)年9月、名古屋キャンパス白鳥学舎の近隣に新学舎「大宝学舎」を開設し、本学がこれまで重点的に取り組んできた外国語・国際教育に関するハード面の充実を図る。</p> <p>②大宝学舎を活用して、とりわけ国際文化学部及び外国語学部の語学授業やアクティブ・ラーニングと授業外学習及びその支援、外国人留学生との交流等を集約的に提供し、ソフト面の充実を図る。</p> <p>③愛知県はユネスコスクールの活動の先進地域であることから、個別高等学校に直接的に連携を働き掛け、高校生・留学生・本学部生の交流活動や共同作業を伴うような事業の検討を進める(29)</p>	

(注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を( )書きで付記してください。

・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。

・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。

・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

## 7 その他全般的事項

### <国際文化学部 国際協力量科>

#### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。  
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

#### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>別添「FD委員会規程」に基づき、全学的なFD委員会の下部組織に、国際文化学部FD委員会を設置している。国際文化学部FD委員会の構成は、学部長を委員長とし、4名の専任教員（学部教務委員と同一）により構成されている。また、この委員会の方針を基に、学部教授会構成員全委員の参加によるFD研修を随時実施している。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>委員会でも議論は学部のFDに関する方向性の議論にとどめ、学部長の指示により、教授会構成員全員を対象とした全体会議で全教員のFD活動を推進することとした。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>学部教務委員会の終了後、必要に応じてFD関連の連絡・調整を行っているが、とくに9月28日には単独で委員会を開催し、入学前準備準備プログラム実施の総括、国際文化基礎演習、国際協力基礎演習（それぞれ対象学科の2年生配当ゼミナール）、基礎セミナーにおける学生同行についての実情報告、離籍・退学等の可能性につながりかねない学生の動向などの関して、学部FD会合でも情報収集・情報交換の方法などについて議論した。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>2015年度に問題として確認した各項目に即して、学生の就学状況の的確な把握とともに、随時アドバイザー教員が学生の要望や抱える問題に対して迅速に対応できるように体制を整えた。具体的には、学部長、担当教員、学生支援課職員による連携と日常のかつ頻繁な意見交換によって学生の問題を抽出し、常に対応してきた。</p> <p>【具体的な活動】</p> <p>1. 学生実態の把握と教員としての対策の検討（7月13日）：        特に2016年度入学生の入学後の動向をすべての教員が共有するために基礎セミナー担当者からの報告、語学クラス担当などを基に、今後の対策をと指導方針の検討を行った。</p> <p>2. 学部FDの核としての「グローバル人材の育成について」「アクティブ・ラーニングの可能性について」の研修（10月5日）：        他大学のシンポジウムに参加した教員の報告をもとに、国際文化学部が取り組むべき「グローバル人材の育成について」意見交換をし方向性を確認した。また、2018年度後半から供用開始となる大宝学舎グローバル・コモンズの利用を想定した「アクティブ・ラーニング」のあり方を議論した。</p> <p>3. 留学生と交流する外国語学習の実践事例報告と検討（1月11日）：        主として英語演習、英会話、中国語などの授業において、国際文化学部学生と留学生別科に学ぶ外国人学生との授業内交流を実施することで、相互の学習効果を上げつつ、国際的視野を身に付ける授業が展開できることを実践的に示し、今後の授業校生のあり方として議論した。</p> <p>b 実施方法</p> <p>2015年度に掲げられた問題に対して、学生と教員との間の障害を極力取り除き、学生理解に基づく指導体制が構築できるように研修を積み上げた。すべての研修は全教員が参加することを原則とし、学部教授会開催後に集約的に展開した。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>開催時期を工夫した結果、公務等による教授会欠席者を除き全員参加でFD研修を実施することが出来た。</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>1年、2年対象の演習で学生の動向を基本的に把握することにより、学生の授業への参加を促進するとともに、必要に応じた個別指導により、学生の不満を的確に理解し、対応することが出来るようになった。また、すべての事例を学部長が報告を受け、必要に応じて直接対応する体制も整った。これらの取り組みにより、国際文化学部の専門科目の授業対応に一貫性が生じつつあり、授業間の学生対応の温度差が縮小するとともに、授業の連携（合同授業・講師を招いた授業の共同開催）などの取り組みも進行した。</p>
--

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

《2016年度 授業アンケート実施状況》

春学期：6月

秋学期：11月～12月

b 教員や学生への公開状況、方法等

教職員、学生とも、担当部署（学生支援課・瀬戸キャンパス総合事務局）にて閲覧することが出来る。  
教員は自身の担当科目を、学内イントラネットでも閲覧出来る。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学国際文化学部は、文部科学省が推進する我が国における「グローバル人材育成戦略」（平成24年6月）が求める豊かな語学力・コミュニケーション能力や異文化体験を身に付け、国際的に活躍できる人材の育成を目標として開設され、現在までに2か年の学生を受け入れ、設置の趣旨・目的に即したカリキュラムに基づいた学修を進めている。従来から本学の外国語教育・国際化教育を担ってきた外国語学部が大きく改組され、英米語学を主体とした教育内容に変更されたことと並行して、多様な言語による国際コミュニケーション教育の推進や国際理解学習の推進、国際協力活動への実践的な参画などを目標に掲げて、国際文化学部は国際文化学科および国際協力学科の2学科体制で教育を進めているところである。語学教育が中心となる外国語学部と明確に教育内容の差別化を図るために、国際文化学部では国際理解に基礎づけられた国際交流・国際協力・国際支援に資する能力を身に付けることができるように基本的なカリキュラムの整備を行ったうえで、開設の届出を行い受理された。平成30年度末の学部完成まで、この方針と教育の方向性を堅持し、なお必要な改革を進めながら教育目標を達成する。

国際協力学科はとくに国際協力・国際支援に関する実践的教育を軸にしたカリキュラム構成で学修を進めることを主たる目標としており、座学に偏重せず、海外スタディーツアー、海外留学、ボランティア活動などを有機的に取り込みつつ、学生の主体的な課題発見・問題解決型の授業を積極的に取り入れながら、少人数主体の専門教育を広く展開しているところである。とくに第1期入学生が2年次に進級し、学修を始めた平成28年度には多くの専門科目がスタートし、国際協力・国際支援学習のための理論的諸分野とともに、主としてアジアの多地域に関する地域研究分野、とりわけ難民・移民問題、人権、ジェンダー、国際協力組織、国際機関などに関する講義も多岐にわたって展開され、国際協力学科の専門性が学生に明確に理解されるように、当初からの計画に沿った授業展開がなされた。

平成27年度開設時より病気休職中であった石崎程之講師（平成28年11月退職）の学部授業の担当については、学部開設当初に教授1名（長田こずえ）が国際連合より着任し、石崎講師の欠員分を事前に補充し、国際協力論、演習科目等を万全の態勢で実施できるめどを立てた。他に予定されていた科目は学部の専門分野の重なる教員によって代替され、授業に支障なく2年次以降で予定通り適切に開講されている。平成28年度より開講予定であった農村発展論は生態学、地域生態研究及びラテンアメリカ地域研究の木村教授が、平成29年度より開講予定の国際企業論は石崎講師が作成していたシラバスに即して、経済学の木船教授（兼任）、国際社会学の人見准教授、NGU・NPO論の佐伯講師、および発展途上国の地域開発に即して地域生態研究の木村教授が分担してオムニバス形式で開講することとした（平成29年度から実施）。また、開発経済学は非常勤講師をもって代替させた。

平成27年度の第1期入学生の初年次学習時から海外合宿型の集中講義・実習として実施されている国際協力学科の「スタディーツアー」では、事前学習としての国際協力実践論1および事後学習と成果の取りまとめやプレゼンテーション能力の向上に主眼を置いた国際協力実践論2と接続的な授業展開を通して学習している。地域研究の方法、地域理解のあり方、地域での社会連携実践などを学ぶために実習と座学と討論が春学期授業、夏に実施される現地スタディーツアー、秋学期授業と1年にわたって有機的連携の下で進行する。そのような経験と学修を通じて、アジア地域における文化と社会のあり方への多様な理解をもとに文化多様性と其の維持・発展のための協力・支援への取り組みを学ぶことで、そのまま舞台を国際的な場へと展開できるように学修させており、2年間で30名（学科所属学生の40%）が海外のフィールドで教員と密接に生活をともにしながら、学習に励んできた。このプログラムは平成28年度もフィリピンで実施され、学生の自主的な調査活動とその記録の作成がより効率的に実施され、学習の成果報告書でも全員の記載を公表できた。

このような教員と学生の密着型の学習は、国際協力学科でも、学外教育にとどまらず、中国語や英語の学習においても正規授業プログラムの中で展開されており、とくに本学に留学中のネイティブの学生と授業内での相互学習を通して学びあう場を教員が提供する、あるいは授業中の学生とアメリカのボランティア・ネイティブ教員とのスカイプを活用した英語によるコミュニケーションを展開し、教員がそれをサポートするなど、多彩な学習推進方法が実践されている。

平成28年度は、昨年度に引き続き、入学予定者全員に対して入学前教育として「自己の探求」プログラムを実施し、本学とりわけ本学部への入学動機を明確化させるとともに、学習にあたっての仲間づくりや学習への心構えの醸成などを目的とした。このプログラムと合わせて全学的に展開している学力試験入試を経ずに本学に専願として入学してくる新入生を対象とした入学前学修プログラムや、入学時の学力測定等を目的としたプレースメントテスト（入学予定者全員が対象）などの複数のプログラムにより、入学後すぐに大学生としてのスタートラインに立てるように配慮するなど、スムーズな学習への導入を行ってきた。また、新入生に対して、オリエンテーション期間と4月の授業期間を活用した上級生による新入生への学部ガイダンスや授業内外での活動紹介などに時間をとることにより、国際文化学部の意義・目的・現状の伝達が学生の実際の行動や言葉を通して行われたことは学生間の結束を高めるとともに、学年を超えた学修への一体感の創出として意義深いことであったと考えられる。

教員としての視点から見れば、学生の学習動機の明確化ならびに学習主体としての学年を超えた交流を、学部所属教員がいかに支え、指導するかという点が、最も重要で、かつ教員間の意思疎通が必要なところである。先に記載した学部で実践されたFD活動にもみられるように、学部教員全員が入学生の学習状況や通学状況を共有し、基礎セミナーを担当する教員がクラスアドバイザーとして個々の学生を掌握していることにより、それぞれの授業や学生との接触場面で様子が相互に理解可能な状態で情報の交換が実践されていることにより、学生の実態把握は十分に行われていると評価できる。また、それぞれの教員が受けた印象なども必要に応じて頻繁に学部長に報告されており、学部長と学生支援課との連携にも効果が認められている。これらが結果として、在学生の満足度にも反映しているものと考えられる。

平成27年度に引き続き、平成28年度における学部設置の進行状況は、設置届出通りに展開されており、カリキュラムに定められたすべての授業を開講して、学生の学修に対応している。引き続き、この体制を堅持する予定である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成29年10月 公表予定

b 公表方法

自己点検評価報告書（名称未定）を作成し、学内外に配布及びホームページで公表予定。

③ 認証評価を受ける計画

財団法人大学基準協会の相互評価及び認証評価を受け、平成24年3月に、「評価の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は2019（平成31）年3月31日までとする。」との結果を受領している。平成30年度に評価機関（大学基準協会）の評価を受ける予定である。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（4）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

（ 有 ・  無 ）

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

（ 年 月 日 ）